

自 令和5年4月 1日

至 令和6年3月31日

令和5年度 公益社団法人 信濃教育会  
事業報告書

令和6年6月10日 理事会提案 令和6年6月10日 承認

令和6年6月25日 定時総会報告

## I 概 況

長引くロシアによるウクライナへの軍事侵攻、中東におけるイスラエルとパレスチナの紛争等により、今年も不安定な国際状況が続いた一年だった。また国内においては、本年一月に発災した能登半島地震をはじめ様々な自然災害が起こった一年だった。平穏な日常の有難さを改めて痛感している。

また、ここ数年猛威を奮った新型コロナウイルスは、昨年5月に、感染症に関する法令の扱いが、2類相当から5類に引き下げられ、従来の感染防止策の見直しも進んだ。また、まだ感染症への備えは必要ではあるが、徐々に以前の状態に戻りつつある。

学校現場においては、遅々として進まない「学校における働き方改革」、教員の志願者の減少や学校現場の教員不足等、課題が山積している。また、GIGA スクール構想により、教育現場のハード面の充実に伴いデジタル化が一段と進んでいるが、ICT の活用による効率的な学びも課題である。更に、「令和の日本型学校教育」として示されている「全ての子どもの可能性を引き出す教育」の具現に向け、「個別最適な学び」と「他者との協働的な学び」の一体的な充実に、「主体的・対話的で深い学び」の実践も求められている。教育のデジタル化に伴い、「個別最適な学び」にかかわる新たな取組も進んでいる。学びの「個別化」と「協働化」は、今後の課題でもある。加えて、「学校における働き方改革」については、勤務時間の削減だけでなく、教職における満足感、達成感も一層注目されるようになってきた。

信濃教育会では、公益社団法人として会員の「職能向上」と「相互扶助」を目標に設定し事業を推進してきた。特に、昨年度に引き続き会員の実践や研修に対する自主性や主体性に伝えていくために、信濃教育会事業への主体的な参加を重視し、事業推進に努めてきた。信教全県研究大会の授業者・研究校の決定に当たっては、公募制とし2年目を迎えるが、徐々に趣旨の理解が進み、応募者、応募校が増えている。また、今年度は新たに「学び続ける教師への支援」として、「学術的な研究調査に励む教師への助成」と「子どもたちの探究的な学びを実現する教師への助成」を2本柱として応募を受け付けた。今後も、会員の主体性・自主性に伝えていけるよう、事業企画に努めていきたい。

信濃教育会の主体は、子どもたちと真摯に向き合い日々実践を重ねている教師である。信濃教育会の事業を推進するに当たっては、会員の要望を踏まえ、変化の激しい時代に対応した事業推進が必要である。また、新たな時代の信州教育を考えたとき、一人一人の教職員が、求め、集い、自主的に学び続けるために存在する信濃教育会の果たす役割は大きい。そのためにも、学校教育に携わっている多くの教職員に入会を呼びかけるとともに、会員の主体性が発揮されるよう今後の事業推進に取り組んで参りたい。

## < 公益目的事業 >

### 一 職能研修事業

#### 1 研究調査

現下の教育課題や学校の喫緊の課題に応えるために6つの研究調査委員会（内4委員会は公募）を設置し、研究調査や実践研究を行った。その成果は各学校の授業や実践研究に生かされた。

福祉教育資料研究調査委員会は、取材協力校と連携し、「小学生ボランティア新聞」「中学生ボランティア新聞」を編集した。また、能登半島地震で被災した子どもたちを支援するため、募金活動を行い2,672,445円を公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の「災害子ども教育支援金」に寄付した。

また、今日的な教育課題に対する情報発信として、オンラインによるアフタヌーンセミナーや産育休者対象セミナーを行った。

## 2 信濃教育会教育研究所

県教育委員会より派遣された研究員6名（77期研究員）が入所し、3つのテーマによる研修を進めた。1年次・2年次の各研究員は、それぞれのテーマを柱とし自分の実践を振り返り、自己課題を明確にする「振り返り」と他の研究員との「学び合い」により、教育上の諸問題の研究と解明に取り組んだ。特任所員からは、研究員へ指導助言をいただくとともに、広く教職員を対象とした土曜公開講座などを通して新たな教育課題等実践についても示唆をいただいた。また、研究先進校視察や今日的な課題解決にかかわる講座に参加し学びを深めた。

75期・76期研究員の成果の発信として、「研究紀要（第27巻・第28巻）」を編集・刊行し、研究発表会を開催した。研究発表会は6・7月に、県内4地区（東北信A、東北信B、中信、南信）にて開催した。263名の参加者（内、初任者研修46名、キャリアアップ研修11名）を得て、その成果を学校現場へ還元した。

## 3 講習・講座

令和5年度は、講習・講座によっては運営委員会をオンラインで開催したところもあったが、対面で実施することができ、参加者の専門性や教養を培った。

一昨年度新設された信州教師塾Aは本年度3年目を迎え、対面とオンライン参加あわせて第1回116名、第2回144名、第3回80名と、小・中・特別支援学校等に勤務する講師の先生方や大学生・短期大学生など多数の参加があった。また、郡市教育会と共催する信州教師塾Bも3年目を迎え、1回に50名近い受講者を数えた会場もあった。『極意』伝承道場も3年目を迎え、15講座で83名の参加者により各講座3～6回程度行った。

また、常任委員会において、講師を招いての研修を3回行った。

## 4 教育研究大会

### (1) 第137回信濃教育会総集会更埴大会

第137回信濃教育会総集会更埴大会は、7月1日（土）、千曲市信州の幸（めぐみ）あんずホールにおいて、更埴教育会の協力のもとに、開催した。開催の様子はZoomで配信し、オンラインでの参加者も募った。また、収録したプログラムは、後日ホームページで公開した。

次年度は、第138回信濃教育会総集会更埴大会を北安曇教育会の協力のもと、白馬村ウイング21にて開催する。

### (2) 全県研究大会

授業研究者・研究校を公募（立候補、推薦）、15研究（個人型8、学校型7）により開催した。研究の自主性と独自性が担保され、かつ、共同研究者からの助言を受けながら自由に研究を進めることができた。開催校では、授業公開の仕方、研究会の持ち方など工夫が見られ、新しい研究の持ち方として有意義であった。大会の成果は「Booklet 信教」、信教HPで発信した。

参加申込みは、Google フォームから行った。参加者は、一般362名、役員76名、計438名、であった。

### (3) 信州“教育の日”（参画）

第20回信州“教育の日”宮田大会が、11月18日（土）（11月第3土曜日）に開催された。大会は、4年ぶりに参集での開催となり、オンライン（Zoom）と併用したハイブリッド方式とした。参加者は262名（対面参加200名、オンライン参加62名）であった。今年度は、分科会方式を導入し、参加型の大会を志向した。地元で日頃から教育に携わっている方々と参加者による意見交換は、学校と

家庭・地域社会が連携しながら教育の充実に努め、生涯学習社会の実現に取り組むというこの大会の意義を体感する貴重な機会となった。

## 5 研修・研究助成

### (1) 大会補助

第137回信濃教育会総集会更埴大会及び信州”教育の日”宮田大会に参加した会員に対し、旅費の補助を行った。また、全県研究大会の研究者及び会場校に対し、研究費等の補助をし、支援を行った。

### (2) 視察派遣助成

#### ① 第74回日本連合教育会研究大会山口大会

高度な技術革新、情報化等、社会が激しく変化し先行きを見通すことが難しい今日、さらに超少子高齢化や危機管理、環境問題等が複雑に絡み合う中で、これらの変化から可能性を見つめ、人間らしく積極的に明日の日本を創造する子供の育成を求め、大会主題を「時代の変化を前向きに捉え 志高く人間性豊かに未来を創造する日本人の育成」とし、令和5年8月17日(木)・18日(金)に山口市民会館を中心に開催された。信濃教育会からは、40名が参加し、全国の教育会の代表者と協議を深めた。

#### ② 第46回長野県同和教育研究大会

文部科学省主催の「2023年度『豊かな人権教育の創造』実践交流会」を兼ね、令和5年8月4日(金)に長野市生涯学習センター4階(長野市)で開催された。「部落差別をはじめとしてあらゆる差別の撤廃に向けて、人権・同和教育の一層の充実に努めるために、識者の講演を聴いたり、体験発表を聴いたりして、差別撤廃への意欲を高め、実践力を養う。」をねらいに、信濃教育会からは10名参加した。

#### ③ 第42次日中友好長野県教育者訪中団

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止のために派遣を中止した。

### (3) 教育会研修助成

各教育会で行われた研究会や懇談会、研修会、集いなどに対し、経費を一部補助し、参加者の職能研修並びに各教育会の事業振興を支援した。

## 6 応募型研修助成

### (1) 短期視察研修補助、自主的校内研修補助、学び続ける教師への助成事業

「短期視察研修補助事業」は10校11人からの申込みがあった。「自主的校内研修補助事業」は、67校から申込みがあり、事業に参加した学校からは大変好評であった。補助事業を受けた会員や会員のいる当該校からは「この事業は、なかなか視察できない遠隔地の先進校の視察ができたり、各校の実態に即した研修が実施できたりするので大変ありがたかった」等の感想が寄せられた。

また、本年度より「学術的な研究調査に励む教師への助成」と「子どもたちの探究的な学びを実現する教師への助成」事業からなる「学び続ける教師への助成事業」が新たに始まった。「学術的な研究調査に励む教師への助成」事業へは、6校6人から申込みがあり、「子どもたちの探究的な学びを実現する教師への助成」事業へは、7校14人から申込みがあった。主に自然科学や歴史分野における専門的な研究調査を積み重ねてきたり、総合的な学習の時間等を使い探究的な学びを実現しようと工夫したりしてきた会員や会員の在籍する学校からは大変好評で、次年度も継続を願う声が多く寄せられた。

### (2) 教育研究論文・教育実践賞、及び教育研究団体補助

教育研究論文・教育実践賞は「会員の職能向上」と「本県教育の刷新と充実」の気運を高める目的で行

われ、126篇の応募があった。この事業に対する会員の関心の高さが伺われた。教職員の資質の向上のために、総集会では個人とグループの特選受賞者のオンラインでの動画発表、また準特選・入選受賞や教育研究団体、公募によりポスターセッションでの発表を行った。また、特選作品は雑誌『信濃教育』へ掲載した。

また、県内の教育研究団体との教育懇談会を昨年に続いて開催し、会員数確保（増）の取組や信濃教育会との連携について情報交換を行った。そして、22の教育団体（同好会など）に研究助成し、「共に学び合う」意識の高揚と教科等の専門性に関する教師の意識、授業力の向上を図る取組を支援した。

## 7 教育推進懇談会

関係する機関・団体と意見交換や情報交換を行い、事業の推進と充実に役立てることができた。

## 8 生涯学習の振興・支援

学生、教育研究団体、公益を目的にする県民への会議室や展覧会の会場貸与を行った。また、講習・講座及び研究大会の公開等を行い、学校教育、人材育成、社会教育など生涯学習の振興に寄与した。

## 二 教育・学術図書の研究調査事業

### 1 教育図書研究調査

#### (1) 教科用図書

自然や季節・生活など、信州の身近な自然の教材化や具体的な授業実践・事例研究及び教科用図書の研究を進め、教師としての専門性を高めた。また、その成果を教育現場に発信した。

- ① 理科学習帳は、児童が「学ぶ楽しさと学びの豊かさを広げること」や「学習を深めること」に重点を置くとともに、理科指導の経験が少ない教師にもわかりやすいものになるよう、指導の要点や留意事項について検討を重ねてきた。また、令和6年度版の改訂に向けて、基本的方針や構成について検討し、3～6学年上巻の発行、下巻の原稿審議を重ねてきた。

昨年度、執筆編集した「理科の教室」99号は、年度当初に発行し、県内小・中学校に無償配布した。100号は記念特集号として外部研究者の寄稿も含め、理科教科書の歴史や編纂に携わった理科教師に焦点を当てた特集を予定している。

- ② 生活科では、本部委員による授業実践や各ブロックの実践から、令和2年度版生活科教科書の実践研究に基づく新教科書への課題の検討を行った。また、令和6年度版教科書・指導書改訂版に向けて、実践事例・記録・写真・資料などを収集し実践研究面で編集協力及び、次期指導書改訂基本方針の検討・策定を行った。「ふるさとの大地」編集については、第27号の編集を行った。編集テーマを「『根っことなるもの』」とし、8つの実践事例を掲載した。いずれも、執筆者が子どもの学びや育ちのストーリーを紐解き、自身のありようを問い返しながら編み直した貴重な実践を掲載した。これらの編集を通して信州の生活科・総合的な学習の時間のあり方について発信するとともに、教師の専門性・同僚性を高めることができた。

#### (2) 夏休み帳、冬休み帳

学校や保護者等の要望や願いを生かしつつ、基礎学力の定着や家庭での学習習慣の育成に寄与できる休み帳を目指し、研究・調査を行った。児童にとって魅力的な内容や使いやすさ等を考慮した休み帳になるよう、また教科書の採用や改訂に対応できるよう、内容の変更や問題の修正を行った。今後は、教科等横断的な課題や社会情勢の中で喫緊の課題と考えられる項目（SDGs、防災教育、環境教育等）について、友だちや親と共に考えたり自分で取り組んだりできるような話題について、「自由な



学習」の中に取り入れられるよう検討したい。

### (3) 高等学校農業学習書

部分的な修正を行った令和2年度用の「バイオテクノロジー基礎」、3年度用の「畜産実験実習必携」を用いて実践研究を行った。実際の指導場面から生徒の実態や記録を集積するとともに、最新の技術やデータの資料収集を行うなど、年次進行による学習指導要領の改訂に備えて準備を進めてきた。

### (4) 信州の教師 基礎基本

教師として身につけておきたいマインドや授業の基礎基本、信州教育として大切にされてきた子ども観や授業観をもとに、教師としての夢を育むことのできる本の編集に取り組んだ。本年度は、本の章立てと基礎基本の項目を決め出し、先生方へのインタビュー等を通して原稿執筆に当たった。

### (5) 理科手引書

初任者や理科指導の初心者にもわかりやすい手引書になることを目指し、教科書と指導書、児童の学びと教師の指導をつなぐことをコンセプトに編集作業を進めてきている。単元に則した「授業のポイント」をふまえ、植物教材の栽培スケジュール、実験器具や薬品管理など、一年間を見通した理科学習の環境整備に関する内容の検討を行った。また、タブレットの活用や「自由進度学習」について、委員による授業公開とともに授業研究会を開催し、研究を深めることができた。

### (6) 秘伝「信州教育の極意」

専門職である教師が研究と実践を通して語った言葉や実践を集め、「信州教育の極意」として多くの教師が共有するとともに後世に伝承することを目指して、文献調査・研究および執筆を進めてきた。人物については、各委員が2名の人物についての調査研究および原稿執筆を行った。また、コラムページについては、各委員が1名～4名についての調査研究および原稿執筆を行った。その結果、人物35名、コラム10名についての原稿執筆が終了した。

## 2 学術図書編集発行

学術図書・機関誌としての情報提供や教育研究資料の累積、会員の資質の向上、地域の生涯学習などへの寄与を願って雑誌『信濃教育』を編集・刊行した。明治19年創刊以来、日本一長寿の月刊学術図書として138年間休みなく発刊している。令和4年度より、各教育会からの推薦で「長野県に縁のある方々による『リレーエッセー』」を新企画として取り入れて2年目となった。

## 3 図書教材研究

図書教材研究協議会及び図書教材アンケートにより、各種図書教材の改善・充実を図ることができた。

## 三 生涯学習振興事業

### 1 信濃教育博物館

教育資料と郷土資料の調査研究、収蔵と整理を行い、教育関係者並びに一般の閲覧・利用に供するとともに、信州教育の研究に貢献した。また、牛山栄世先生からの寄贈資料をもとに「牛山栄世先生遺稿集」を編集するための委員会を組織し、研究調査に取り組んだ。

「今を生きる子どもの絵展」の絵画の募集、表彰、収蔵、展示を通して児童・生徒の感性を高め、教職員の図工美術指導の充実を図った。作品応募数5,000点から永年保存作品数を155点選出し、入選者への永年保存証授与は関係者の励みとなった。

## 2 信濃教育会生涯学習センター

県民と共に歩む生涯学習の推進を目標に、「哲学へのいざないー言葉と沈黙ー」（講師 京都大学名誉教授 藤田正勝先生）の講座を実施した。本年度は講師の藤田先生を会場にお招きし、会場内の参加人数を制限した上で、オンライン参加も含めて開催した。会員・県民75名が受講し、人間的な生き方や感性を共に磨き合った。

生涯学習支援事業では、信州あずみ野生涯学習塾塾生や地域の人たちを中心に、共に学び合う生涯学習の拡大・充実を支援した。事業への参加者は延べ1,086名であった。

### < 収益事業など >

#### 四 災害見舞金事業

会員の相互扶助の精神をもとに、会員の死亡、高度障害、災害入院、災害通院、自然災害に対する見舞金支給を行い、会員の「安心・健康」に寄与した。令和5年度支給状況は死亡5名、高度障害0名、後遺障害0名、災害入院14名、災害通院68名、自然災害（不動産の損害）3件であった。制度発足からの受給者は延べ926名となった。

#### 五 出版・不動産貸与事業

出版事業は、教育関係諸機関等の要望に応え『長野県学事関係職員録』を出版し、教育活動の円滑な推進に寄与した。

また、校務の効率化を図るため、週指導案簿、出席簿など12の諸表簿の研究調査・編集を行った。

不動産貸与事業は、信濃教育会館及び土地の一部を教育関係団体へ貸与し、各団体の事業推進を支援した。また、利用者の福利厚生のため自動販売機の設置を行った。

#### 六 広報・運営

信濃教育会の事業運営の伝達と報告、会員の情報発信・共有を図るために会報（1103号～1113号）を発行した。また、ホームページを活用し、会員への情報提供や信濃教育会の意義や事業内容の周知を図った。また、フェイスブック、インスタグラム、YouTubeを活用した情報提供を増やすとともに、メール受信を希望する方に、信濃教育会の研修等の案内を直接情報提供するようにした。

## Ⅱ 事業活動

### 一 職能研修事業

#### 1 研究調査

##### (1) 現場の課題に応える研究調査

現下の教育課題や学校現場が抱える喫緊の課題に応えるために委員会を設置し、研究調査や実践研究を行った。委員会ではそれぞれの課題を究明し、その成果の一端を教育情報誌「Booklet 信教」にまとめ、各学校に配布するとともにホームページでも発信した。こうした取組は日常の授業改善などに生かされている。

これらの研究調査や実践研究は委員一人一人の資質の向上につながるとともに、委員が学校へ戻って行った実践等は教職員の資質向上へとつながった。

各委員会の実施内容は次のとおりである。

##### ① 全県研究大会研究調査委員会 委員15名 4回(内オンライン2回)

ア ベースとなる授業観『「子ども自らが、心ゆくまで探究する」授業』を基に、全県研究大会の運営、研究への支援を行った。

イ 大会への参加の働きかけを各郡市で行った。また、次年度の授業者や研究校の募集についても同様に行った。

ウ 「Booklet 信教」を年7回発行。公立小・中・特別支援学校・義務教育学校、教育機関に無償配布した。また、個人購読希望にも応えた。

##### ② 学級づくり研究調査委員会 委員5名(公募) 5回

「子どもが集団生活における課題を自主的に解決していこうとする学級づくりをめざした実践研究」に関わって、4回対面で1回はオンラインで委員会を開催し各委員による情報交換を行った。また、委員会として後藤正幸先生、荒深重徳先生の両講演会を開催し多くの会員と共に学ぶことができた。

##### ③ ICT研究調査委員会 委員12名(公募) 7回

「これからの教育に必須となるICT教育についての研究とその啓発に寄与する情報の発信」を踏まえて、7回の委員会をオンラインで開催した。信州大学教育学部の佐藤和紀准教授に助言いただきながら委員の勤務校での実践、情報交換等しながら学び合うとともに、先進校視察を行った委員からの報告をもとに研究を深めた。第7回委員会をアフタヌーンセミナー(視察報告)として公開した。

##### ④ 「インクルーシブな教育」研究調査委員会 委員6名(公募) 5回

今年度は、「小学校の様々な困難を抱える子どもたちが、主体的に学び、生活していくための支援のあり方」について研究調査を行った。信州大学教育学部下山真衣准教授及び稲荷山養護学校鶴田恵市教頭にスタッフとして加わっていただき、下山准教授からは専門家の立場から、また鶴田教頭からは長年特別支援教育に携わってこられた経験から適宜お話をいただいた。課題についての意見交換を実施する中で、優れた委員の実践に学ぼうと、勤務校である安曇野市立三郷小学校を訪問し、委員の学級の様子を見学したり、校長先生や特支COのお話をお聞きしたり、大規模校の支援体制等について学んだりした。研究調査のまとめとして「私の提案」を個々に作成し、ホームページから会員に情報発信した。

##### ⑤ 新しい時代の教育研究調査委員会 委員16名 4回

激動の時代と言われ、学校のあり方も変化が求められていることから、新しい時代の教育はいかにあるべきかを研究調査し学校現場に発信することを目的に開催した。日置電機人事部長の小林亜希子氏からは民間企業の人材育成について、信州大学の荒井英治郎教授からは教育制度・法規につ



いて、信州大学の次世代型学び開発センターの先生方からは探究的な学びについて、元長野県教育長であり文部科学省で文部科学戦略官等を務める伊藤学司氏からは教育行政について、それぞれ講義やグループワークなどを通じて学ぶことができた。最終回は武田育夫会長から本年度のまとめとして、信州教育の歴史についての講義と新しい時代の教育についてのディスカッションを行った。いずれの会においても、意欲的に協議や意見交換が行われ、充実した委員会となった。

⑥ 防災教育研究調査委員会 委員12名 7回

地域と学校がつながり、子ども自らが創り出す防災教育モデルについて、各委員の学校で実践に取り組み、成果と課題を整理した。

## (2) 福祉教育資料研究調査

福祉教育資料研究調査委員会では、長野県社会福祉協議会と連携して、県内各地の小・中・特別支援学校などの福祉教育や交流活動を紹介し、児童・生徒のボランティアに対する意識を高めるための研究調査を進めてきた。取材協力校委員は委員会での研究を受けて、福祉教育資料「小学生ボランティア新聞」「中学生ボランティア新聞」の取材を行った。新聞の体裁については、取材協力校2校の紹介を全面に取り上げ、より大きく見やすいレイアウトに変更した。これまでの福祉教育に関する資料は、デジタルデータとしてHPで紹介し広く活用できるよう配慮した。ボランティア新聞は、長野県社会福祉協議会を通して、県内全ての小・中・特別支援・義務教育学校や公民館等の公的機関などに配布した。

なお、福祉教育の理念のもと、会員の社会貢献に対する意識の高まりを受け、信濃教育会として年間を通した「フードドライブ」への取り組みや「令和6年能登半島地震」の募金活動を行った。

福祉教育資料研究調査委員会 本部委員7名 委員会回数 年5回

取材協力校委員8名 委員会回数 前期2回・後期2回

前期：下條小（下伊那） 緑ヶ丘小（長野上水内） 原中（諏訪） 両小野中（東筑摩塩尻）

後期：戸倉小（更埴） 常盤小（飯水） 真田中（小県上田） 高瀬中（北安曇）

## (3) 今日的な教育課題に対する情報発信

オンラインによるアフタヌーンセミナーを9回、産育休者対象セミナーを1回実施した。アフタヌーンセミナーには、のべ548人が参加した。産育休者対象セミナーには、23人の申込があり20人が参加した。

## 2 信濃教育会教育研究所

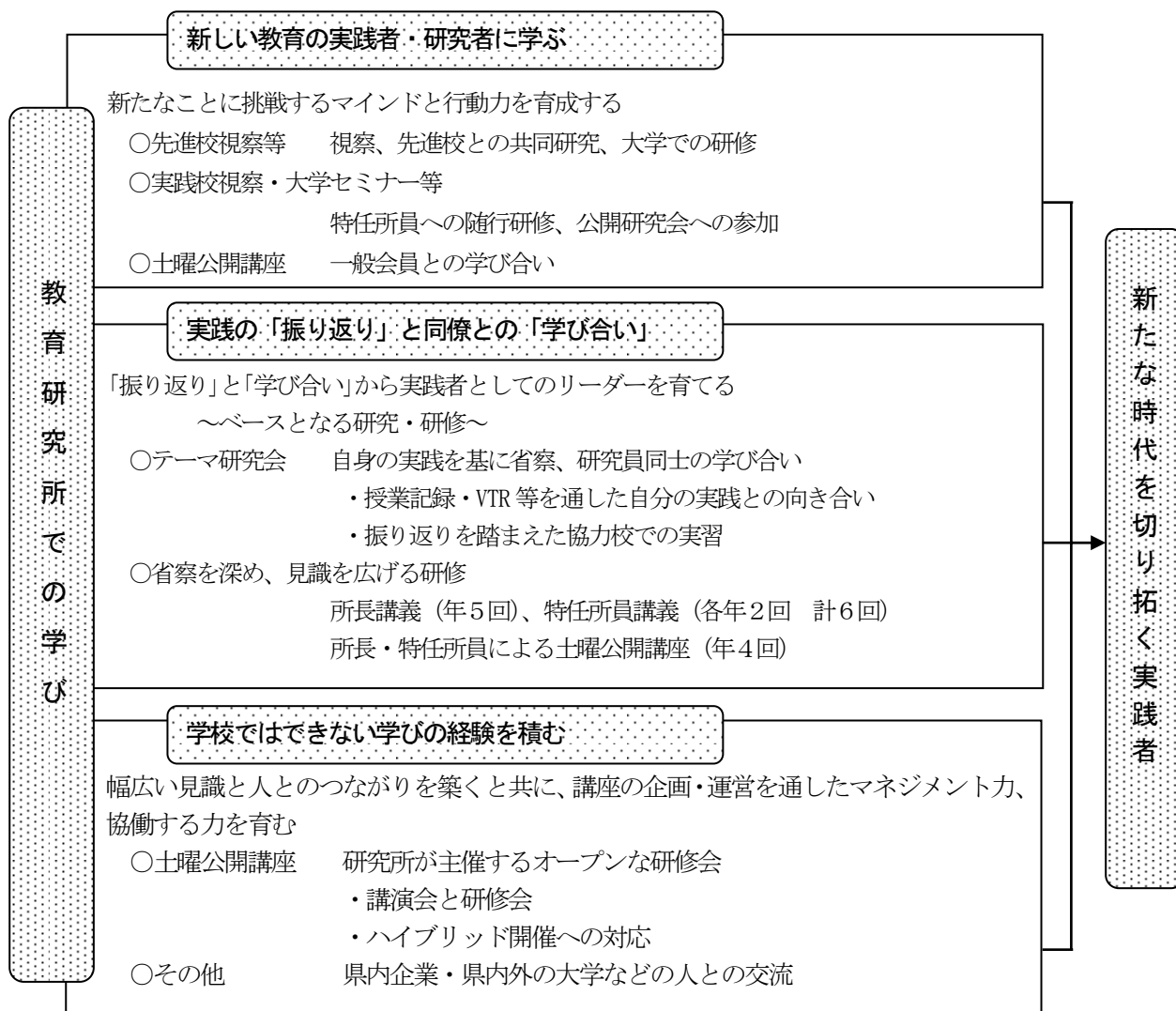
信濃教育会教育研究所は、昭和22年全国に先がけて教育会によって自主的に運営される研究所として創立された。以来76年にわたり、教育上の諸問題の実践的研究と現職教育の場として、これまで751名の教師が学んできている。

### (1) 研究員への指導・助言

長野県教育委員会が公募、選考し、本研究所に研修派遣した第77期研究員（6名）、及び第76期研究員（6名）の研究について指導・助言を行った。

教育上の諸問題の実践的研究と現職教育の場として、教師が自分の実践を振り返り、自らの課題を明確にするとともに、他の研究員と学び合いながら研究の基盤を培った。また、視察、セミナー参加や実習などを通して学校現場の課題に即した研修に取り組んだ。

## ① 研究体制



## ② 研究の内容（テーマ、研究の視点）

第1テーマ 「教師と子ども、子ども相互の関係づくり」

第2テーマ 「子どもの学びが深まる授業づくり」

第3テーマ 「今日的な課題に対応する多様な学び」

## （2）研究成果の還元並びに現場との交流

### ① 研究発表会

研究協議では、教育実践をめぐる視野の広がりや深まりが見られた。また、参加者からは「グループ討議で行ったので、参加者(特に初任者)が意見を出しやすかった」等の声があった。

昨年度に引き続き4地区開催で実施し、東北信B会場は対面とオンラインのハイブリッド開催とした。

地区・発表者	開催日	会場校	参加者数
東北信A・第75期生	6月17日（土）	軽井沢町立軽井沢西部小学校	76名
東北信B・第75期生	7月8日（土）	信濃教育会館（ハイブリッド開催）	74名
中 信・第76期生	7月15日（土）	塩尻市立広丘小学校	60名
南 信・第76期生	7月22日（土）	岡谷市立神明小学校	53名
合 計			263名

## ② 土曜公開講座

研究員が所長及び特任所員と共に、参加者の授業実践や困り感を通して学び合い、教職員としての職能向上を図るとともに、教育研究所と学校現場との交流を深めた。全回、ハイブリッド開催で行った。

	期 日	会 場	講 師	参加者数
第1回	6月 3日(土)	信濃教育会館	佐伯 胖 所長	26名
第2回	10月 7日(土)	生涯学習センター	岩川直樹 特任所員	37名
第3回	11月25日(土)	信濃教育会館	高柳充利 特任所員	11名
第4回	12月16日(土)	信濃教育会館	奈須正裕 特任所員	44名

## ③ 「研究紀要第27巻・第28巻」の発行

研究の成果と足跡を記録としてとどめるとともに、教職員の教育実践に寄与するために、第75期研究員・第76期研究員の実践研究論文を編集して研究紀要を発行した。

・各学校他、教育関係機関への配布

## ④ 1年次研究員の研修・研究

・所長講義 テキスト：『現代の教師論』『ビデオによるリフレクション入門』

『子どもを「人間としてみる」ということ』

『状況に埋め込まれた学習 正統的周辺参加』『「わかり方」の探究』

・特任所員講義 全10回

・テーマ研究会 全11回

・読み合わせ、輪読会 等

読み合わせ会（8回）（『信州総合学習の源流』）

淀川遠足（淀川茂重の足跡をたどる所外研修）

輪読会（8回）（『正法眼蔵入門』）

・県内外研究先進校への視察（5月～12月、全28校）

・協力校での授業参観（6月～9月）・実習（10～11月）

・各種研究会参加（全県研究大会、福井ラウンドテーブル 等）

## ⑤ 2年次研究員の研修・研究

・2年次実践研究会（6回）、「新しい時代の教育」委員会参加（4回）

## ⑥ 研究所運営委員会 委員16名、年4回開催（内オンライン2回）

## ⑦ 長野県教育委員会・市町村教育委員会連絡協議会・県小中校長会との懇談会 9月4日

## （3）教育相談・校内研修支援

### ① 子どもや教師の指導にかかわる相談

### ② 校内研究・研修の支援

土曜公開講座の語り合いの場において、悩みを語り合ったり、相談に応じたりした。

## 3 講習・講座

### （1）臨地講習・基礎講座・生涯学習講座

教師としての専門性（授業力の基礎）を磨くとともに、人間性の向上を図り、地域ともどもの生涯学習の機会とするために以下の講習・講座を計画した。

講習・講座によっては運営委員会をオンラインで開催したところもあったが、講習や講座自体は対面で実施することができ、参加者の専門性や教養を培った。

実施した講習・講座は次のとおりである。

講座名	期 日	開 催 会 場	講 師	実施状況
信濃の国探訪	8月 2日 (水) ～3日 (木)	北アルプス山麓 (安曇野)	宮下健司先生 (元 長野県史常任編纂委員)	34名
信濃の自然めぐり	6月10日 (土)	開田村木曾おんたけ健康ラボ	木曾おんたけ健康ラボスタッフ 木曾馬の里 中川剛	18名
多様な子どもたちへの支援	8月 1日 (火)	塩尻総合文化センター	松下雅子 (長野保健医療大講師) 清水洋幸 (アフタフバーマン信州)	32名
ALTとぶらっと善光寺	8月 3日 (木)	信濃教育会講堂及び善光寺とその周辺	ALTの先生方5名 梵鐘の会の方2名	20名
合 唱	5月 20日 (土)	丸子文化会館セレスホール	藤原規生先生 (声楽家、合唱指導者)	84名
書 写 書 道	8月 4日 (金)	信濃教育会館	市澤静山 (信州大学名誉教授・日展会員) 坂田和弥 (前県書写書道教育研究会会長) 小池 勲 (県書写書道教育研究会会長)	84名
オーケストラ	5月20日 (土) 6月24日 (土)	生涯学習センター	寺島 克彦 先生 (前小諸高等学校校長) 木村美音子先生 (洗足学園音楽大学講師)	45名
理科観察・ 実験講習会	8月4日 (木) 東信	上田創造館	CST (南相木小教頭)・創造館理科主事	19名
	8月1日 (火) 南信	かざこし子どもの森公園	おもしろ科学工房 三浦宏子	23名
	6月10日 (水) 中信	上高地 焼岳・大正池周辺	信大名誉教授 原山 智 松本市教育文化センター 一ノ瀬浩子	31名
	8月1日 (火) 北信	戸隠地質化石博物館・裾花川	博物館学芸員 田辺智隆	15名
美 術	7月 31日 (月) ～8月 2日 (水)	信濃教育会館	上田秀洋先生 (信州大学名誉教授)	34名
生涯学習講座 哲学の道	10月28日 (土)	信濃教育会 生涯学習センター (ハイブリッドによる開催)	藤田正勝先生 (京都大学名誉教授)	対面 37名 オンライン 12名
信州教師塾A	5月27日 (土)	ハイブリッド開催	講義、集団面接、小論文演習	116名
	7月29日 (土)		個人面接・模擬授業等の演習	144名
	2月24日 (土)		教師の基礎・基本講義、演習 子ども理解の講義、模擬授業	} 80名
	～25日 (日)			
信州教師塾B	各郡市1～3回	郡市教育会館	第1講座「グラフィックファシリテーション」 グラフィッククラブの皆様	554名
			第2講座「コミュニケーション力」 折山 旭先生	
			第3講座「作文力」 山崎文智先生 他	
「極意」 伝承道場	年間4～7回	指導者の学校 受講者の学校	指導者15名	83名

諸研修	常任委員会にて 5月11日(木) 6月8日(木) 11月20日(月)	信濃教育会館	中川綾先生 (長野県教育委員) 嶋野道弘先生 (元文教大学教授) 貝ノ瀬滋先生 (三鷹市教育長、東京都教育会長)	常任委員、 研究所研 究員ほか
-----	---	--------	---	-----------------------

#### 4 研究大会事業

##### (1) 第137回信濃教育会総集会更埴大会

本年度の総集会は、千曲市信州の幸(めぐみ) あんずホールを会場として実施するとともに、総集会の様子をZoom配信した。

- ① テーマ 「信州教育の創造 ～ 未来を拓く職能の向上 ～」
- ② 開催方法 ハイブリッドで開催するとともに、後日総集会の内容をホームページに掲載。  
・会場参加者 600名(会員500名、来賓・役員100名)

##### ③ 内容

###### ア パネルディスカッション

テーマ 「信州教育の明日を拓く」～外部から信州教育に期待すること～

パネリスト マイクロストーン株式会社社長 白鳥敬日瑚 さん

筑波大学人文社会系教授名誉教授 伊藤 純郎 さん

元文部科学省大臣官房総括審議官 大槻 達也 さん

コーディネーター 信濃教育会会長 武田 育夫

###### イ ポスターセッション

教育研究論文・教育実践賞の入選者(個人・グループ)及び希望者による発表16組

ウ 講演 講師 新井 紀子 国立情報学研究所 社会共有知研究センター長

演題 AI時代にこそ、子どもたちにつけたい力

エ 演奏会 演奏 信濃教育会オーケストラ

指揮者 木村 美音子 さん 信濃教育会オーケストラ常任指揮者

(洗足学園音楽大学講師)

##### (2) 全県研究大会

研究大会のコンセプトは「授業者、研究校の公募」「指導者に替わる共同研究者」「自主性、独自性のある研究」とした。『ベースとなる授業観「子ども自らが、心ゆくまで探究する」授業』を据えて15研究(個人型8、学校グループ型7)を公開した。研究大会には、役員を含め延べ438名が参加した。研究会の持ち方には、それぞれの工夫が見られ、パネルディスカッション形式(共同研究者も交えて)やシンポジウム形式(生徒や地域のかたも交えて)も行われた。これからの研究会のあり方を考える機会となっている。課題としては、指導案のスタイルから抜け出していないところ、共同研究者との関係性の難しさ、郡市ごとの参加者のばらつき、研究者や授業校の立候補数の差などが挙げられる。全県研究大会の成果と課題を明らかにして、さらに新しい方向を考えていきっかけとしたい。

研究の成果は「Booklet信教」にまとめ、県内の公立小・中・特別支援学校・義務教育学校に無償配布した。

実施における基本的な立ち位置およびに実施状況は次のとおりである。

- ① 『ベースとなる授業観「子ども自らが、心ゆくまで探究する」授業』
- ② 授業者、研究校の公募(立候補、推薦)による決定



- ③ 自主性、独自性に基づく自由な発想による研究と共同研究者との連携
- ④ 新しい方向性を示す、授業公開と授業研究会の実施
- ⑤ 全県研究大会の成果の発信のための情報誌「Booklet 信教」の発行、HPへの掲載

※各会場の実施状況（公開日順）

公開日	授業者・研究校 / 共同研究者 ○テーマ	参加者
10/27 (金)	屋代遊学会（屋代中学校） / 村瀬公胤（麻布教育研究所 所長） ○教科複合的視点から編む学びのデザイン #子どもを軸に#同じ仕組み#違う見方	23名
10/31 (火)	赤穂中学校 / 高柳充利（信州大学 准教授） ○「問い応え続ける」～結び合いの中で生きる個～	15名
11/2 (木)	小林英成（伊那小学校） / 苫野一徳（熊本大学 准教授） ○子どもたち一人ひとりの”うずちゃん”との世界を共に歩みながら探りたい	104名
11/8 (水)	城東小学校 / 岩川直樹（埼玉大学 教授） ○創って越える子どもと教師	18名
11/9 (木)	上田市立北小学校 / 早坂 淳（長野大学 教授） ○自ら学びに向かう子ども～問いをもとにした3つの視点を手掛かりする探究活動	35名
11/10 (金)	三本柳小学校 / 岡野 昇（三重大学 教授） ○自ら学び続ける力を育むための授業づくりのあり方	14名
11/13 (月)	小林勝俊（木曾町中学校） / 植原俊晴（信州大学 助教） ○生徒理解からはじめる「一人ひとりが探究的に学ぶ授業づくり」	18名
11/14 (火)	信更小学校 / 大畑健二（信州大学 准教授） ○子どもが学びの推進者となるための授業づくり	33名
11/16 (木)	熊谷 光（大町西小学校） / 岩川直樹（埼玉大学 教授） ○協働を軸とした「やってみよう」から始まる効果的な膨らむ学び	18名
11/17 (金)	上田市立第一中学校 / 松木健一（福井大学 副学長） ○生徒の主体的に学習に取り組む態度の涵養を目指して	27名
	川口 純（阿智第一小学校） / 藤田育郎（信州大学 准教授） ○すべての子が楽しさを感じられる体育学習のあり方	31名
11/29 (水)	軽井沢東部小学校 / 苫野一徳（熊本大学 准教授） ○対話から始める学校づくり	37名
11/29 (水)	北川裕之（伊那東小学校） / 佐藤和紀（信州大学 准教授） ○学習の個性化と協働的な学習の一体化～与えられた問いから自ら見つけ出した問いへ～	27名
11/30 (木)	小林一輝（開田小学校） / 伊藤純郎（筑波大学 名誉教授） ○歴史を語る子どもたちを目指して	22名
	塚田 巧（御代田南小学校） / 八木雄一郎（信州大学 准教授） ○子どもが探究的に学ぶ授業を目指して	16名

### (3) 信州“教育の日”への参画

信州“教育の日”は、創設以来の3つのねがい「信頼・使命」「参画・共生」「教育尊重」の具現に努めるため、構成20団体、後援136団体、地域の関係団体などの連携によって「第20回 信州“教育の日” 宮田大会」が以下のように行われた。

- ① 主催 信州“教育の日”実行委員会

- ② 共 催 宮田村教育委員会
- ③ 期 日 11月18日(土) (11月の第3土曜日)
- ④ 会 場 宮田村民会館
- ⑤ 主な内容

4年ぶりの参集による開催とした。オンライン (Zoom) による参加も可能とし、対面参加200名、オンライン参加62名の参加者を得た。

ア 開会セレモニー

実行委員長挨拶、祝辞(県教育次長 曾根原好彦氏・宮田村村長 小田切康彦氏)、三行詩表彰、「やる気宣言」、アイスブレイク、分科会発表者紹介

イ 分科会①、② ※①②は各40分、発表者は同じ内容を発表、参加者が移動

- ・ 第1分科会「食でつながる地域の絆～食農教育で育てられたもの～」  
発表者：食どころ 吉澤小百合さん
- ・ 第2分科会「ちいずぷちい物語～老舗菓子屋 × 上農GL～」  
発表者：上伊那農業高校生徒、菓子庵石川社長 石川信頼さん
- ・ 第3分科会「『峠の茶屋』は私たちに任せて！～企業とのコラボによる探究の授業～」  
発表者：高遠高校生徒、伸和コントロールズ(株) 江藤大祐さん
- ・ 第4分科会「学校のために何でもやるでね～地域住民による学校支援～」  
発表者：中沢小応援隊 佐久間暉さん
- ・ 第5分科会「地域のコミュニケーションを生む子ども参加の防災訓練」  
発表者：地区自主防災会役員・防災士 西森一博さん
- ・ 第6分科会「みんなに笑顔を届けたい！～ありがとうプロジェクト～」  
発表者：(有)丸中産業 唐澤則之さん、リサイクルマートnew伊那店 久保村欧州さん、(株)鈴可 福田真也さん、伊那中学校 井上卓也教諭
- ・ 第7分科会「こうして新しい学びは始まった！～地域の大人と中学生が創り上げるキャリアフェス～」  
発表者：元伊那市キャリア教育コーディネーター 久保村英未子さん

ウ 展示発表 「県PTA主催三行詩コンクール優秀作品」を館内に掲示

エ 製品販売 伊那養護学校高等部生徒製作の製品をロビーにて販売

オ 休憩時 ① 宮田村紹介 宮田村 加藤孝志教育長によるトークと映像による宮田村の紹介  
② 来賓祝辞(郷土愛プロジェクト会長 向山孝一氏)

カ 閉会セレモニー

感想発表(フローア)、次年度開催地代表挨拶(山ノ内町 竹内延彦教育長)、県歌「信濃の国」斉唱

## 5 研修・研究助成

### (1) 大会補助

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、総集会は、開催方法を大きく変更して実施。全県研究大会は、「VTRやパワーポイントを使った研究発表と、グループ討議・全体討議を取り入れた授業研究会」「体験工房の中止」「人数制限」など大きく運営体制を変更して開催するとともに、会場校に助成をし、職能研修の支援を行った。

実施された内容は次のとおりである。

大会名	開催期日	開催場所	参加者数	補助金
信濃教育会総集会	7月1日(土)	信州の幸あんずホール	約600名	1,118,600円
全県研究大会	前頁参照	県内15小中学校	438名	1,500,000円
信州“教育の日”	11月16日(土)	宮田村民会館	262名	150,970円
合 計			約1,300名	2,769,570円

## (2) 視察派遣助成

### ① 第74回日本連合教育会研究大会山口大会

#### ア 目的

日本連合教育会は、昭和24年に発足し、常に中正普通の日本教育の確立をめざし、世界の平和と人類の福祉に貢献できる日本人を育成するための活動を続けてきている。

本年は、創立75年目を迎えた。山口大会では、大会主題に「時代の変化を前向きに捉え 志高く人間性豊かに未来を創造する日本人の育成」を掲げ、日本の教育のあり方を考えた。

#### イ 実施内容

・期 日 令和5年8月17日(木)・18日(金)

・会 場 山口市民会館 他

ウ 派遣者数 40名 (全郡市36名、事務局4名)

#### エ 主な内容

##### ・講 演

演題 「チームでつかんだ金メダル」

講師 東京2020パラリンピック女子マラソン金メダリスト 道下 美里 先生

・分科会 10のテーマに分かれ、実践発表、研究協議、グループ討議

・アトラクション 維新劇・創作ミュージカル「SHOWIN～若き志士たち～」特別ヴァージョン  
S・RやまぐちSHOWINユニット

### ② 第46回長野県同和教育研究大会(2023年度「豊かな人権教育の創造」実践交流会を兼ねる)

#### ア 目的

部落差別をはじめとしてあらゆる差別の撤廃に向けて、人権・同和教育の一層の充実を図るために、識者の講演を聴いたり、体験発表を聴いたりして、差別撤廃への意欲を高め、実践力を養う。

#### イ 実施内容

・期 日 令和5年8月4日(金)

・会 場 長野市生涯学習センター4階(長野市)

・参加者 10名

### ③ 第42次日中友好長野県教育者訪中団

今年度も、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため派遣を中止した。

## (3) 教育会研修助成

各郡市教育会で開催される2つの教育懇談会の事業に対し、その事業経費の一部を補助し、参加者の職能研修並びに各教育会の事業振興を支援した。

教育会集い事業は、多くの教職員が集い、人と人がつながり、教育会の大切さを認識する各教育会で行われる懇談会や講演会、講座・講習会、読み合わせ等に対し、一律50,000円の助成を行った。

新任者教育懇談会は、先輩や新任教師との懇談を通して、今の自分を見直す有意義な機会となった。新任者教育懇談会を実施した郡市教育会に対して新任者1名当たり500円の助成を行った。

本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、多くの事業が中止を余儀なくされた。

実施された事業は次のとおりである。

教育会名	教育会集い事業		新任者教育懇談会	
	実施日	参加者数等	実施日	新任者数
佐 久	10月27日(金)	58名	5月23日(火)	59名
小 県 上 田	12月2日(土)	28名	5月22日(月)	41名
諏 訪	11月18日(土)	73名	5月26日(金) 5月30日(火)	110名

上 伊 那	10月17日(火)	30名	5月2日(火)	66名
下 伊 那	1月26日(金)~2月6日(火)	340名	5月23日(火)	81名
木 曾			4月25日(火)	17名
東 筑 摩 塩 尻	8月26日(土)	36名	1月25日(木)	8名
安 曇 野 市	11月11日(土)	93名	5月30日(火)	19名
北 安 曇	11月25日(土)	50名	4月22日(土)	22名
更 埴	7月28日(金)	179名	5月1日(月)	22名
上 高 井			5月23日(火)	14名
中野・下高井	8月5日(土)	61名	5月18日(木)	10名
飯 水	8月5日(土)	46名	6月19日(月)	9名
長 野 上 水 内	8月5日(土)	330名	4月11日(火)	68名
松 本 市	11月17日(金)	72名	9月1日(金)	76名

※ 教育会集い事業 助成金総額 650,000円(13教育会) \* 斜線箇所は未実施  
 新任者教育懇談会 助成金総額 311,000円(15教育会)

## 6 応募型研修助成

### (1) 短期視察研修補助

この事業は教職員個人や学校現場が抱える課題を解決するために、県内外の学校や教育機関で5日以内の研修を希望する会員及び当該会員が勤務する学校に対して、研修費用の補助や研修に赴く教職員の補充者の紹介及び謝礼の補助を行うものである。令和5年度は10校から11人の申込みがあったが、補充者の希望はなかった。

### (2) 自主的校内研修補助

会員の職能向上のために学校独自に行う校内研修に対して、研修を深めるための必要な費用(講師謝礼・資料作成費など)の補助、資料の貸出しを行う。

補助金額は、その校における県費教職員数と信濃教育会の会員数の割合に応じた額で算出。

- ① 応募校数 67校
- ② 研修内容 授業・指導の改善：28校、特別支援教育：5校、自由進度学習：4校、  
人権同和教育：3校 その他(地域素材・QU・UDなど)：27校
- ③ 補助金額 1,562,000円(1校平均 20,912円)
- ④ 感想(実施校の感想等から)

ア 高校からの申請もあり、「とてもありがたく、素晴らしい制度である。」「ぜひ継続をお願いしたい」等とても肯定的な意見が多数を占めた。

イ 「取り組める研修の幅が広く、研修後の報告についても様式が示され負担が少なくありがたい。」という意見が多いので、申請のしやすさや報告の簡便さについてもアピールしていくとより多くの学校が活用するのではないかと思われた。

ウ 本校では自由進度学習について、講師を招いて実践研究を積み重ねているが、講師を招く費用に毎年当てさせていただいている。学校独自の研究を深めるために活用できるので大変ありがたい。

### (3) 学び続ける教師への助成事業

#### ① 学術的な研究調査に励む教師への助成事業

この事業における助成対象の専門的な学術分野における研究調査活動とは、自然科学や人文科学、あるいは保健衛生学や疾病等の医科学などにかかわるものとして、研究調査に必要な機材・資材や関係文献・書籍購入費、資料作成費等、研究調査に必要なものに助成するものとします。

- ア 申し込み者数 6校6人から申し込みがあった
- イ 助成の内容 自然科学関係（陸生ヨコエビの分布研究、アサギマダラの生態研究）  
人文科学関係（戦国時代の幡塚の研究）、全国の童謡研究 など

② 子どもたちの探究的な学びを実現する教師への助成事業

この事業における助成対象の探究的な学びとは、教師が主導して活動が展開していく学習ではなく、子どもたちが課題を見つけ、考え、判断していく学習活動とします。明らかに探究的な学びが成立している、あるいは今後成立する見込みがあれば、学びに取り組む子どもたちとは、会員が担任する学級集団であっても、あるいは学年集団であっても、学校全体であっても認めるものとしてします。

- ア 申し込み者数 7校14人から申し込みがあった
- イ 助成の内容 「アイガモさんを飼って、お米をおいしく育てよう」、「上田市のパンフレットを作ろう」「わたしたちのアマゴと過ごす～アマゴが棲む川を楽しむ」など総合的な学習の時間や生活科等での実践で、探究的な学びを実現している会員からの申込みが多かった。7校中小学校が6校で、中学校は1校であった。

(4) 「信教会長と語ろう」事業

信濃教育会会長が、各教育会・同好会、学校、校長会・教頭会等の要請にもとづきに出向き、参加者と共にこれからの信州教育を考え合った。

今年度は、校長会1、教育会1、小学校1校、中学校1校、農業大学校1校、私立学校1校、教頭会2、支部同好会1で実施。

(5) 教育研究論文・教育実践賞

会員の教育的課題解決への機運を高め、信州教育の創造につなげたいと願って企画・実施した。本年度は、2次審査に外部審査員6名を加えより開かれた審査となるようにした。126篇の応募があり、主体的に研究や実践に取り組んだ会員やグループが意欲的に参加している。

今年度も、他への応募と内容が重なる作品はなかった。応募作品は信濃教育会の信濃教育博物館に貴重な資料として保管し、会員をはじめ一般にも公開される。また、特選受賞のみならず入賞者は総集会で、ポスターセッション形式で発表するとともに、特選作品は雑誌『信濃教育』に掲載され、教育の振興に有効な資料として提供されている。

実施内容は次のとおりである。

① 募集内容

以下にかかわる研究や実践

- 学習指導 ○生徒指導 ○教材・教具の開発 ○心の教育 ○特別支援教育 ○その他教育全般
- 【特別テーマ「学校づくり」】
- 学校マネジメント ○教育改革 ○校種間・地域連携 ○学校事務 ○その他

② 審査

ア 審査委員 4名

- 委員長 代議員会代表 西 一夫 信州大学教育学部教授
- 委員 外部審査員 工藤 信一 信濃毎日新聞社論説委員
- 委員 常任委員会代表 野口 茂雄 緑ヶ丘小学校長
- 委員 幹事会代表 小野 英子 豊野西小学校長

イ 審査日 令和6年2月20日（火）

ウ 審査結果（応募数126篇）

- 特選 2点（個人1 グループ1） 準特選 4点（個人2 グループ2）
- 入選 10点（個人7 グループ3） 特別賞 1点 佳作・奨励賞 109点



③ 入賞者の表彰他

ア 特選：10万円 準特選：8万円 賞金の他に盾と賞状  
 入選、特別賞：3万円 特別賞：3万円 賞金と賞状  
 佳作：1万円 奨励賞：図書カード(2千円分)

イ 特選受賞者及び入選者は、令和6年7月6日(土)に行われる第138回信濃教育会総集会北安曇大会において、ポスターセッション等の発表を行う。

(6) 教育研究団体補助

県内教育団体(同好会)への補助を通して、同好会への参加・参画による「共に学び合う」意識の高揚と、教科など専門性に関する教師の資質の向上を図るために行っている。

補助内容は次表のとおりである。

補助金申請教育研究団体名	責任者名	会員数など	本年度補助金
信州社会科教育研究会	野口 茂雄	628名	120,000円
長野県学校体育研究会	秋山 昇	726名	115,000円
信州理科教育研究会	土屋 次男	582名	115,000円
長野県算数数学教育研究会	茅野 公穂	600名	105,000円
長野県音楽教育学会	石川 武	436名	70,000円
長野県技術・家庭科教育研究会	市川 元彦	337名	60,000円
長野県国語教育学会	西原 秀明	233名	55,000円
長野県学校保健会養護教諭部会	畠山 文子	728名	55,000円
長野県美術教育研究会	徳嵩 博樹	267名	55,000円
長野県道徳教育学会	山浦 貞一	176名	35,000円
長野県英語教育研究会	臼井 伸明	150名	35,000円
生活に根ざす信州総合・生活科教育研究会	馬淵 勝己	135名	40,000円
長野県書写書道教育研究会	小池 勲	65名	25,000円
長野県家庭科教育研究会	竹内 宏枝	37名	20,000円
長野県国際教育研究協議会	宮澤 忠利	218名	35,000円
信州大学教育学部附属幼・小・中・特別支援 6校園学習指導研究会	畑 邦弘	参加者数 600名	200,000円
長野県図書館協会小中学校図書館部会	林 明美	536校	50,000円
長野県視覚・放送・情報教育研究会	片山 洋一	540校	40,000円
長野県統計教育研究協議会	横澤 秀信	523校	30,000円
長野県特別支援教育研究連盟	山下 雅史	490校	25,000円
長野県学校保健会 小・中・特別支援学校 保健主事部会	西沢 和彦	555校	20,000円
長野県へき地教育振興協議会	日台 邦治	73校	20,000円
合	計		1,325,000円

7 教育推進懇談会

長野県の教育の向上を目指して、次の教育関係機関との懇談会を実施した。

- ・長野県PTA連合会 6月13日(火)
- ・長野県小学校長会・中学校長会 7月13日(木)
- ・長野県教育委員会 8月21日(月)
- ・教育研究団体 9月6日(水)
- ・長野県教職員組合 12月5日(火)

- ・信濃教育会賛助委員会 10月 4日 (水)
- ・長野県退職校長会 12月 6日 (水)

## 8 教育関係機関との連携

### (1) 信州大学教育学部との連携

- ・エデュケーショナル チャレンジへの支援
- ・信州大学教育学部一年生への講義 8月2日 (水)

### (2) 長野県との連携

- ・阿部守一知事と若手教員との懇談会を開催 11月14日 (火)

## 9 生涯学習の振興・支援並びに学校教育の振興

### (1) 会員・教職員及び県民などへの会場・施設の貸与

信濃教育会会員など教職員で構成する教育研究団体や一般の教育団体等に信濃教育会館本館の講堂・講義室・会議室、博物館の展覧会会場、生涯学習センターの講堂・学習室などを貸与した。

実施内容は次のとおりである。

- ① 会員、教職員の会議、研究会、企画展への会場貸与
- ② 県民への会場貸与 (信州あずみ野生生涯学習塾、生涯学習インストラクターの会など)
- ③ 教育関係団体への施設貸与

### (2) 施設整備

信濃教育会会員や教職員・県民の会館利用の利便性向上のために、第1駐車場及び第4駐車場の整備を行った (白線引き直し、樹木伐採・剪定、路盤不陸整正、区画ロープ設置等)。

## 二 教育・学術図書の研究調査事業

### 1 教科用図書研究調査

#### (1) 理科学習帳、生活科教科書・教師用指導書

県内4ブロック及び長野上水内教育会とその近隣郡市教育会より推薦された熱意と創意にあふれた委員の実践をもとに理科・生活科教育の研究を進めた。

委員自身の教科研究のあり方や指導力が一層高まり、委員の学校や他の会員にもその成果を上げ、学校や地域の教育力の向上に寄与している。

##### ① 理科学習帳の研究

理科学習帳研究委員会の本部委員会では、4ブロックの委員とともに理科学習帳の実践研究を行い、学習者と指導者の立場に寄り添った学習帳のあり方について検討を重ねてきた。子どもが観察・実験の結果を的確に記入し、考察し、まとめ、自らの「学び」を振り返られるようにするとともに、基礎・基本の定着をいっそう図ることのできる学習帳を目指して研究を進めてきた。さらに、令和6年度版理科教科書に準拠した学習帳の発行に向け、3～6学年上巻の全面改訂の原稿審議とともに下巻改訂の準備を重ねてきた。

理科の教室99号は、年度当初に発行会社である信州教育出版社より、県内全ての小・中・特別支援学校へ無償配布し、学年会や教科会での活用に使った。

実施の内容は次のとおりである。

##### ア 理科学習帳研究委員会

委員会名	内 容	回 数	委員数
本 部 委 員 会	・令和6年度版理科学習帳全面改訂の審議 ・3～6学年上下巻の改訂原稿の作成と審議	22回	15名 (監修者1名)
ブロック委員会	・令和2年度版理科学習帳の実践報告 ・基礎講座「理科観察・実験講習会」実施	4回 *第1・2回全体会後のブロック会を含む	26名
全 体 会	・実践事例に基づいた理科学習帳研究 *全体会はオンライン、ブロック委員会はそれぞれの会場で対面式により開催	2回	42名

##### イ 正副委員長・ブロック主任会

委員会名	内 容	回 数	委員数
正副委員長・ ブロック主任会	・進捗状況把握と推進計画立案 ・委員の推薦に関わる情報交換	3回 *第2・3回は オンライン	7名

(正副委員長・ブロック主任会構成：正副委員長3、ブロック主任4、部長1)

ウ 令和2年度版理科学習帳 3～6学年(各上・下巻)の研究

令和6年度版理科学習帳 3～6学年(各上・下巻)の原稿審議

エ 「理科の教室」第100号(令和6年7月発行)の編集

・内容 100号特別号の企画検討

##### ② 生活科教科書・教師用指導書、生活科・総合的な学習の時間実践誌の研究

「人間愛」の育成を基本理念とし、「子どもの思いや願いから出発」した「地域に根ざした教材と直接体験」、「豊かな生活のドラマを作り出す単元構成」などに留意しながら、県内の多くの学校の実践を通して生活科教育研究を行ってきた。

令和5年度生活科教育研究では、本部委員による授業実践や各ブロックの実践から、令和2年度版生活科教科書の実践研究に基づく新教科書への課題の検討を行った。また、令和6年度版教科書・指導書改訂版に向けて、実践事例・記録・写真・資料などを収集し実践研究面で編集協力及び、次期指導書改訂に向けての提出原稿の検討を行った。

「ふるさとの大地」編集委員会は、主として生活科教科書の理念に基づいた各地域の実践事例を収集

し、豊かな学びや育ちを支える活動のポイント、教師の子どもを見るまなざしが分かるものとして信州の生活科・総合的な学習の時間 実践誌「ふるさとの大地」27号の編集を行った。編集テーマを「根っことなるもの」とし、8つの実践事例を掲載した。

シリーズ10回目（最終回）となる特集「生活科・総合的な学習と学力」では、「生活科・総合的な学習の時間と私」と題して、児童・生徒として生活科や総合的な学習の時間を経験されたことをもとに、その学びの底流をなす「根っことなるもの」を考察した。

これらの編集を通して、生活科・総合的な学習の時間の意義や実践に生かせる内容の深化を図り、学び高め合う生活科教育ならびに総合的な学習の時間の充実と発信に努めた。編集委員会では、原稿審議の過程が委員や執筆者の研修（職能向上）となり、さらにそれが学校現場で“人から人へ”広がっていくことを大事にした。次号第28号発刊に向けて、組織改編及び編集方針の検討を行った。

委員会実施の内容は、次のとおりである。

#### ア 生活科教育研究委員会

委員会名	内 容	回 数	委員数
本 部 委 員 会	・令和2年度版生活科教科書の実践研究 ・令和6年度版指導書原稿の検討 ・ブロック会への参画 ・実践検討会の実施	17回	9名
ブロック委員会	・教科書単元の授業実践と研究 ・素材及び教材研究と子ども理解の研究	4回	22名
全 体 会	・指導書編集にかかわる実践課題の検討 ・各ブロックで研究課題についての協議	2回	38名

#### イ 「ふるさとの大地」編集委員会

委員会名	内 容	回 数	委員数
本 部 委 員 会	・「ふるさとの大地」27号の編集、原稿審議、校正 ・28号の企画立案	11回	9名
ブロック委員会	・「ふるさとの大地」27号の原稿審議 ・実践事例研究	4回	22名
全 体 会	・年間計画、ブロック会計画、編集方針 ・テーマの立案 ・実践事例、コラムなどの検討、審議	2回	34名

#### ウ 正副委員長・ブロック主任会

委員会名	内 容	回 数	委員数
正副委員長・ ブロック主任会	・全体統括、進捗状況把握と推進計画立案、教科書活用の現況や国の動向の情報収集と分析、他	4回	13名

（正副委員長会構成：正副委員長5、ブロック主任8〈兼務1〉、教科用図書研究部長1）

#### エ 次期改訂版指導書の基本方針・原案審議

#### オ 「ふるさとの大地」27号の編集について

○ テーマ 「根っことなるもの」

○ 内 容 特集、実践事例（メイン4つ、コラム4つ）、実践ライブラリー、ブロック会だよりの内容検討

#### カ 「ふるさとの大地」28号の企画・立案

## (2) 夏休み帳、冬休み帳

「学校や保護者等の要望や願いを生かしつつ、基礎学力の定着や家庭での学習習慣の育成に寄与できる」を目指し、「どんな休みを過ごすか」を考え、意欲を持って取り組める、使いやすい休み帳の研究・編集を行った。

実施の内容は次のとおりである。

- ① 夏・冬休み帳研究委員会 委員16名 6回
- ② 編集の重点

ア 児童にとって魅力的な内容や使いやすさ等を考慮した休み帳になるよう、また教科書の採用や改訂に対応できるよう、内容の変更や問題の修正を行った。「自由な学習」の中の工作・一研究の写真等は、適時性を考慮し、可能な限り新しいものに変更した。

イ デジタル化への対応、タブレットへの対応について、できるところから対応した。

ウ 子どもが、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力の育成を目指し編集した。また、教科等横断的な課題や社会情勢の中で喫緊の課題と考えられる項目（SDGs、防災教育、環境教育等）や、大人と共に考えたり自分で取り組んだりできるような話題についても、「自由な学習」の中に取り込んでいけるよう取り組んだ。

## (3) 高等学校農業学習書

令和4年度から年次進行で実施される学習指導要領の改訂を受け、『畜産実験実習必携』『バイオテクノロジー基礎』の学習書について、農業高等学校の実践をもとに使いやすさと学習成果の向上を目指した研究を継続した。各部会については今年度開催せず、委員各自が改訂に向けて畜産並びにバイオテクノロジー部門の事例や基本データの収集を行った。

- ① 高等学校農業学習書研究委員会 委員10名 全体会1回
- ② 編集の重点

県内農業関係の高等学校で委員自らが実践した素材・教材研究を持ち寄り、農業学習に必要な実験・実習の基礎基本を身につける学習書として編集している。販売実績としては、広島県、長崎県の農業高等学校で継続購入していただいている。

## (4) 信州の教師 基礎基本

教師として身につけておきたいマインドや授業の基礎基本、信州教育として大切にされてきた子ども観や授業観をもとに、教師としての夢を育むことのできる本の編集に取り組んだ。本年度は、本の章立てと基礎基本の項目を決め出し、先生方へのインタビュー等を通して原稿執筆に当たった。

- ① 信州の教師 基礎基本研究委員会 委員16名 回数5回 内 オンライン開催3回
- ② 編集の進捗状況

多くの読者に手に取ってもらえるように、章立てと内容をきめ出し、各項目の原稿を作成した。

## (5) 理科手引書

教育実践に基づいた授業づくりのポイントをおさえ、教科書と指導書、児童の学びと教師の指導をつなぐことをコンセプトとし、現場の要望やアンケート調査に基づいた研究・調査とともに、執筆した原稿や章立てについて審議を重ねてきた。

- ① 理科手引書研究委員会 委員17名 回数10回  
年度当初に今年度の委員会活動について正副委員長と幹事長による打ち合わせを行った。
- ② 「授業づくりのアイデア（学習指導要領の内容項目）の見直しを行うとともに、「授業づくりのポイント」「授業づくりのテクニック」「授業づくりのベーシック」について執筆を進めた。学年グループや全体会で審議を重ね、児童観、授業観、教材観について議論を重ねた。また、章立てについては、現場のニーズに照らした項目の絞り込みと内容の検討を行った。
- ③ 自由進度学習について、会長より指導をいただく機会を得た。それを受け、2月末に本編集委員会の委員による授業公開を行った。授業後、委員会以外の参加者も交えた研究会を開き、自由進度学習



に対する意見交換を通して理解を深めることができた。

## (6) 秘伝「信州教育の極意」

専門職である教師が研究と実践を通して語った言葉や実践を集め、「信州教育の極意」として多くの教師が共有するとともに後世に伝承することを目指して、文献調査・研究および執筆を進めた。

- ① 秘伝「信州教育の極意」研究委員会 委員19名 回数7回  
第2回、第4回及び第5回はオンライン会議により委員会を開催した。
- ② 編集の進捗状況  
人物については、各委員が2人の人物について調査研究および原稿執筆を行った。また、昨年度までに取り上げられている人物に女性が1人もいないことから、コラムを担当するグループで急遽執筆することとした。その結果、コラムについては、各委員が調査研究を行い1～4名の人物について執筆することとなった。最終的には、人物35名、コラム10名について原稿が完成した。
- ③ 監修者の助言  
高柳充利先生に人物およびコラムの原稿の校正を依頼し、第6・7回委員会でファクトチェックや引用の仕方等についてご指導いただき執筆にいかした。

## 2 学術図書編集発行

### (1) 雑誌『信濃教育』

会員の声を生かし、学術図書として、また機関誌としての情報の提供や教育研究資料の累積、会員の職能の向上、地域の生涯学習などへの寄与を願って編集・刊行した。

雑誌『信濃教育』は、日本一長寿の月刊学術図書であり、明治19年創刊以来発刊し続けて138年間、令和6年3月で第1648号になった。会員のみならず、県内外の教育関係者をはじめ大学等の教育研究機関などで幅広く購読されている。

実施内容は次のとおりである。

- ① 委員会
  - 雑誌編集本部委員会 委員 6名 4回 (内オンライン会議1回)
  - 雑誌編集地方委員会 委員17名 3回 (内オンライン会議1回)
- ② 編集方針
  - 教師としての生き方、現場の課題などをテーマに、識者の論文、現場の実践報告、教育関係者だけではない立場からの寄稿など、幅広く執筆を依頼した。
  - 各郡市教育会に寄稿を依頼し、親しみやすい連載コラム欄を設けた。
- ③ 編集テーマ
  - 4月号 子ども達が教えてくれたこと
  - 5月号 私の「学級づくり」
  - 6月号 私の「授業」
  - 7月号 生徒指導の充実に向けて ～インターネット問題を考える～
  - 8月号 学年担任制・教科担任制の実践に学ぶ
  - 9月号 資質・能力を育む授業改善
  - 10月号 特集 第137回信濃教育会総集会
  - 11月号 我が教育会の取組 No.4
  - 12月号 インクルーシブな教育を求めて ～多様性を大切にする教育活動～
  - 1月号 性の多様性について考える
  - 2月号 我が校の授業研究
  - 3月号 安全・安心な学校づくり

※各教育会からの推薦で「長野県に縁のある方々による『リレーエッセー』」を連載した。

5月号 草間 朋子 白馬インターナショナルスクール代表理事 (北安曇教育会)

6月号	青木 幸雄	前千曲市総合教育センター所長	(更埴教育会)
7月号	平賀 研也	前県立長野図書館館長	(上伊那教育会)
8月号	さくまゆみこ	翻訳家・日本国際児童図書評議会会長	(木曾教育会)
9月号	武田 徹	ラジオパーソナリティ・フリーキャスター	(長野上水内教育会)
12月号	赤羽総一郎	上高地みそ株式会社代表取締役社長	(高等学校教育会)
1月号	武田 忠善	前国立音楽大学学長	(中野・下高井教育会)
3月号	赤沼 健至	株式会社燕山荘代表取締役社長	(安曇野市教育会)

### 3 図書教材研究協議会

信濃教育会が編集している教科用図書、図書教材、学術図書などの出版事業について理解を深めるとともに、今後の事業内容、活用拡大について協議した。また、教育現場における出版物（教科用図書、図書教材、学術図書など）の活用状況や会員の要望、アイデアを収集し具申した。

- (1) 図書教材研究協議会 委員数…15名  
開催数…2回

#### (2) アンケートの実施

Google フォームによるアンケート調査を、県内全小・中・特別支援・義務教育学校の学校委員にアンケートを依頼し、多くの教職員から意見や要望が寄せられた。アンケート結果を受け、今後の事業への反映について各校に周知するとともに、事業推進に生かすことができた。

### 三 生涯学習振興事業

#### 1 生涯学習の推進

##### (1) 生涯学習振興委員会

生涯学習センター運営部会（委員9名）については、生涯学習講座「哲学の道」の準備・運営等、2回実施し、生涯学習事業の支援を行った。

#### 2 信濃教育博物館の運営

##### (1) 研究調査・資料収集・保管

信濃教育会がこれまでに発行してきた教科書や出版物、各郡市教育会や個人から寄贈された書籍や出版物を筑波大学名誉教授伊藤純郎アドバイザーの助言を得て研究調査・収集・整理・保管して、学界・教育関係者・県民への閲覧・利用に供した。また各郡市教育会や教育機関の発行した教育資料・郷土資料の収集・管理や「信州子ども絵画100年館」の絵の収集・管理を行い、県民の財産としての収集資料の一層の充実を図った。なお、「信州子ども絵画100年館」の収集作品のデジタル資料保存を受けて、その活用のあり方を検討してきた。

###### ① 「牛山榮世先生遺稿集」編集委員会

牛山榮世先生からの寄贈資料の研究調査を進めるとともに、令和8年の遺稿集発行を目途に編集活動（資料選定）を進めた。

- ・委員 … 公募による委員14名
- ・委員会回数 … 年間6回開催

##### (2) 展 示

###### ① 資料企画展

資料整理のため資料企画展は中止した。

###### ② 今を生きる子どもの絵展

###### ア 子ども絵画企画展

信州の子どもたちの絵画を後世に残し、貴重な資料・教材として収集・活用するために、子ども絵画作品を募集・展示した。永年保存作品の展示と収集、会報への掲載、さらには、入選者への賞状授与は、大きな励みと夢を与えている。「信州子ども絵画100年館」の絵の展示を「今を生きる子どもの絵展」として次のように開催した。受賞者の家族等、多くの来館者があった。

事業名	期間	内容	来館者数
今を生きる子どもの絵展	3月10日(金) ～5月31日(水)	「今を生きる子どもの絵展」の 令和4年度永年保存作品展	693名
企画展 「子どもから見える風景 子どもが感じる世界」	7月7日(金) ～8月4日(金)	永年保存作品の中からテーマ に沿って描かれた作品	199名

イ 子ども絵画移動展は、より多くの人に鑑賞してもらうために、会場を信濃教育会生涯学習センターに移して下記のように開催した。

事業名	期間	内容	来館者数
今を生きる子どもの絵展	10月11日(水) ～10月17日(火)	「今を生きる子どもの絵展」の 令和4年度永年保存作品	167名

###### ウ ホームページへの掲載

令和4年度永年作品を信濃教育会ホームページに11月から掲載した。1学年3～4作品ごと、2か月に1度更新して、ホームページでも閲覧できるようにした。

###### ③ 郡市教育会展

各教育会の歴史や特色を紹介する「郡市教育会展」は、各教育会が展示資料を作成し本館に展示している。令和5年度は飯水教育会展をエントランスホールで行った。

### (3) 収蔵資料等の閲覧・貸出

#### ① 資料の閲覧・貸出

信濃教育博物館には、教育に関する国内外の貴重な資料が収蔵・保管されている。特に、雑誌『信濃教育』や教科書類の資料的価値は高い。研究者・報道関係者・博物館関係者・一般閲覧者などが資料を求めて来館した。来館者は、県内はもとより県外からは関東一円に加え、関西など遠方に及んでいる。

区分	期間	貸出先	内容など	利用数
資料の貸出	通年	信州教育出版社	長野県女教師の歴史	1件
資料の掲載・放映等	通年	長野市立博物館、県教組会館、信濃毎日新聞	松代封内測量図、教科書、満蒙開拓写真	3件
資料の閲覧・複写・写真撮影等	通年	会員、研究者、一般	郷土資料・職員録・教科書・雑誌『信濃教育』・教育会史研究等	50件

#### ② 子ども絵画の閲覧・貸出

美術教育や文化の振興を図るため、所蔵する児童・生徒の絵画を希望者に閲覧・貸与した。

事業名	期間	利用先	利用数
子ども絵画作品の貸出	通年	学校 県内小中学校 8校 団体等 信州教育出版社・県PTA連合会・日本教育公務員弘済会長野支部 教育会 佐久教育会、木曽教育会 個人	268点

#### ③ 展示会場などの貸与

会員及び学生・県民・一般の芸術活動などの成果発表の場として、また、そのことを通して文化の振興に寄与するために展示会場などを貸与の機会を設けたが、コロナ禍により主催者より中止という連絡を受けた。

ア 会員展 なし

イ 高校・大学・専門学校・一般県民への展覧会会場貸与

期間	内容	来館者数
10月2日(月)～10月5日(木)	Fの会グループ展	50名

#### ④ 資料の寄託

本会の依頼により大正2年に中村不折が制作した『佐久間象山肖像画』について、より多くの方に作品をご覧いただきたいとの願いで、不折の故郷にある信州高遠美術館に寄託した。

寄託期間は令和6年1月4日から令和9年3月31日まで

### (4) 子ども絵画育成支援

児童・生徒の情操を養うとともに、美術教育の振興を図るために県内の児童・生徒から、「信州子ども絵画100年館」に収蔵する絵画作品を募集し、地方審査と中央審査を経て、地方と中央の入選者全員の表彰を行った。中央審査会では信州大学の学生が審査アシスタントとして参加した。中央審査会で「信州子ども絵画100年館」で永年保存となった全員の名簿と代表作品を会報に掲載し、関係者の励みとなるとともに広く教育・文化の発展に寄与した。

なお40回を数えた「花やみどりのある絵展」は平成26年で募集を終了した。その永年保存作品10,589点を収蔵し、展示や貸出をしている。

#### ① 今を生きる子どもの絵展募集状況

作品数	小学校	中学校	合計
応募作品数	3,617点	1,513点	5,130点
永年保存表彰数	101点	54点	155点

入選累積数(昭和62年から令和5年まで) 合計 8,115点

展示期間 令和6年3月8日(金)～5月31日(金) 4月8日以降は平日のみ開催

② 表彰・顕彰

全入選作品作者（地方入選・中央入選）に対し、賞状授与を行った。また、永年保存作品作者に対し、作品カラー写真を貼付した「永年保存証」を贈り、「信濃教育会報」に名簿と代表作品を掲載した。

3 生涯学習センターの運営

県民ならびに児童・生徒、教育関係者の生涯学習のために適切な機会と場を提供するなどの事業を展開した。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため事業を縮小したりオンライン開催を取り入れたりしながら推進した。

(1) 生涯学習講座

「生きがいを求め 共に学ぶ喜び」をテーマに講座を設け、県民と会員との相互の学び合いにより、人間的な幅広い生き方や感性を磨き、参加者は学びを深めることができた。

哲学の道	10月28日(土)	講演 「哲学へのいざない-言葉と沈黙-」 藤田正勝先生（京都大学名誉教授）	62名 +13名 (オンライン)
------	-----------	---	------------------------

(2) 生涯学習センターの開放と生涯学習支援

信州あずみ野生生涯学習塾をはじめ生涯学習に励む個人や団体に学びの場を提供したり、情報を示したりして活動を支援した。内容は次のとおりである。

① 信州あずみ野生生涯学習塾・つむぎ会（地域のボランティア団体）への支援

(参加者数は延べ人数)

講座名	期日・回数（2月末現在）	内容	参加者数
彫 塑	4～12月 月4回 25回	モデルを囲み彫塑制作	110名
拓 本 表 装	通年 月2回 23回	拓本採拓及び表装学習	88名
タピボン刺繍	通年 月1回 11回	刺繍制作	38名
マナ・トーン	通年 月3回 37回	ハンドベル演奏・合唱	240名
箏アンサンブル	通年 月3回 29回	箏演奏	84名
書を楽しむ会	通年 月2回 20回	書を学ぶ	133名
つむぎ会	通年 週2回 81回	交流会・ストレッチ・大正琴	393名

「作品展と発表会」の実施

6月10日(土)・12日(日) 来館者数 73名

② 教育関係団体（全県的な同好会など）、生涯学習団体への会場の貸与

③ 連携・施設の活用

所在地が県のほぼ中央にあることの利便性や広い駐車場を生かし、信濃教育会の諸事業が全県的に円滑に推進できるように次のことに取り組んできた。

ア 児童・生徒絵画展の実施（信濃教育博物館事業との連携）

・「今を生きる子どもの絵展」（移動展）10月11日(水)～10月17日(火) 作品 147点  
来館者数 167名

イ 諸会合の開催

・研究調査委員会、各種研究会等の開催



## 四 災害見舞金事業

### 1 事業内容

信濃教育会の「相互扶助」の精神のもとに、死亡、高度障害、災害入院、災害通院及び自然災害による不動産への損害に対する見舞金支給を行った。

実施内容は次のとおりである。

#### (1) 災害見舞金事業

- ① 令和5年度支払い状況 支給総額 11,656,180円  
死亡 5名 高度障害 0名 後遺障害 0名 災害入院 14名 災害通院 68名  
自然災害（不動産） 3件
- ② 制度発足からの累計（昭和50年度～令和5年度）  
人数 926名（件） 金額 1,645,805,546円

#### (2) 災害認定委員会

年3回（内2回はオンライン開催）実施し、審議・認定を行った。

#### (3) その他

今年度は、昨年度の2倍以上の申請があった。災害見舞金事業に関し周知されてきている。今年度は、新たに「災害見舞金ネーミング選考委員会」を立ち上げ、しみやすいニックネーム（愛称）を会員に募集し決定する取組を通して、全ての会員が災害見舞金について理解を深め、万が一の時に活用できることを目的に、全委員の会議5回、代表者会議5回を行った（会議は全てオンライン）。令和6年度に募集・決定等を行う予定。

## 五 出版・不動産貸与事業

### 1 出版事業

#### (1) 長野県学事関係職員録

教育関係諸機関をはじめとする社会の要望に応え、県内教育関係諸機関の情報を掲載した「長野県学事関係職員録」を出版した。教育関係者に贈呈や販売をし、教育活動の円滑な推進に寄与した。

#### (2) 諸表簿等調査・編集

週指導案簿、学級保健簿、学級日記、出席簿、教務手帳、児童生徒健康診断票などの各種諸表簿の令和4年度版の見直し・改訂を、会員アンケートの意見や要望を踏まえ行った。週指導案簿では、今年度もカバーの色変え、後半部の資料の改訂など、県教委各課と連携し見直しを図った。さらに、会員の要望を受け、「必携資料」のデータを信教ホームページの「会員のページ」に載せ、好評を得た。

今後、検討過程や改善の事実などの取組の広報や周知に努め、会員の参加・参画意識を高めていきたい。また校務の効率化に伴う、「校務支援システム導入」に関する市町村の動向を注視していきたい。

### 2 不動産貸与事業

信濃教育会館及び土地の一部を教育関係団体に貸与し、各団体の事業推進を支援した。

#### (1) 土地

- ・長野県教育会館
- ・信濃教育会館入居団体の専用駐車場

#### (2) 信濃教育会館・事務室

- ・長野県教職員互助組合
- ・長野県退職教職員互助組合
- ・長野県PTA連合会
- ・長野県退職公務員連盟
- 他

## 六 広報・運営

### 1 広報

#### (1) 信濃教育会報

信濃教育会の事業運営状況を迅速かつ丁寧に報告し、会員にとって読みやすく、信濃教育会への理解を深められるように努めた。最も伝えたいことを表紙写真に用い会員に向けて事業の案内や報告など情報発信・共有を図る場とした。

実施内容は以下のとおりである。

- ① 第1103号から第1113号までの11号を発行した。ホームページのリニューアル、フェイスブックやインスタグラムの開設等タイムリーな情報が会員に届けられるようになったことに伴い会報発行回数を見直した。「今を生きる子どもの絵展」特集号(第1112号)を発行した。
- ② 信濃教育会事業案内や運営状況、事業案内や出版物の紹介に加え、信濃教育会と他団体との懇談会報告、子ども絵画作品、海外日本人学校情報の掲載などの幅広い情報など、写真とタイトル、レイアウトを工夫し身近に感じて読んでもらえる会報を目指した。「会員ひろば」や「わたし自慢」などの企画をやめ、郡市教育会の負担をなくした。

#### (2) ホームページ、SNSによる情報発信

信濃教育会の事業内容や動向についてホームページやSNS等で広く公開し、信濃教育会に対する理解を広めたり深めたりすることに努めた。実施内容は以下のとおりである。

- ① リニューアルしたホームページから、会員への情報提供や信濃教育会の意義や事業内容を発信した。
- ② 情報を集約して随時更新し、信濃教育会の動きを正確・迅速に広報できるようにした。
- ③ 信濃教育会のホームページ活用についてチラシ等との連携を図り、常任委員会等で広報に努めた。
- ④ メール受信を希望する方に信濃教育会の研修等の案内を直接情報提供するよう努めた。

### 2 運営

#### (1) 執行、監査、議決、諮問機関

詳細は以降参照

#### (2) 会員アンケートの実施

- ① 内容 信濃教育会の事業評価及び今後の運営についての要望
- ② 実施校数及び回答数(回答率は 回答者数/会員数)

郡市教育会	対象校数	回答数・率	郡市教育会	対象校数	回答数・率
佐久	小7・中4・特1	182/191 95.3%	小県上田	小6・中3	106/108 98.1%
諏訪	小6・中3・特2	149/166 89.8%	上伊那	小6・中3	76/88 86.4%
下伊那	小7・中4	81/88 92.0%	木曾	小3・中2・特1	52/60 86.7%
東筑摩塩尻	小3・中2	61/61 100%	安曇野市	小3・中2	68/78 87.2%
北安曇	小3・中2	62/60 103.3%	更埴	小3・中2	69/79 87.3%
上高井	小3・中2・特1	85/89 95.5%	中野・下高井	小3・中2	48/52 92.3%
飯水	小2・中1	36/46 78.3%	長野上水内	小9・中5・特2	184/235 78.3%
松本市	小5・中4・特2	158/178 88.8%	高等学校	4ブロック各1校	7/8 87.5%
計	小69・中41・特9・高4		回答数・率	1,425/1,588	89.74%

#### ③ アンケートの全体考察

本年度は回収率が90%近くとなり、昨年度の72%を大幅に上回り、会員の協力や参画意識、併せて各校窓口(担当)より協力要請していただいたことが伺える結果となった。またアンケート内容が変更され、焦点化された項目をGoogleフォームで回答する形式も取り組みやすさにつながった。今年度

は、コロナ禍を経てオンラインやハイブリッド等の実施方法と、参集開催のよさを感じる研修等が実施されたことも影響している。

調査研究委員会については、会員の声を受け、ICTやインクルーシブ教育、新しい時代の教育等を実施しているが、今後実施する中で見直しを進めることで、信濃教育会らしさにつながっていくと思われる。また、教育研究所については、今年度より1年次に紀要を作ることとし、発表会は、切り替えのため、2年次の研究員と3年次の研究員が行った。実践や論文を聴くことができ、共感できる部分が多かった。

講習・講座では、若手会員との協議から実施に至ったりフレッシュできる講座が開設され、継続を望む声が多くあった。県内各地での開催を希望する声もあり、地域の特色を知り、触れることができる内容の講座としての計画も期待されている。このような交流や体験的な講座に加えて、会員は、現場で直面している課題に対応できる内容を求めている。研修したことを本年度からスタートした研修履歴に反映できる点からも、講座等への期待が大きい。また、アフタヌーンセミナーのように気軽にオンライン参加でき、働き方改革にもつながるような講座、企画を充実させていくことも、負担が少なく、自主的に参加できる活動の工夫、共に学び共有できる取り組みを願う声に答えていける。今後も、課題に対応し参加しやすさも考慮した、多くの会員のニーズに応じた企画・運営を進めていきたい。

広報については、自主的校内研修補助事業・短期視察補助事業等の補助事業、災害見舞金事業は周知に努めた結果が現れているが、今後出版される書物の紹介、教育研究論文・教育実践賞の意義やよさ、教育研究所主催の土曜公開講座や生涯学習センターの活用については、周知の必要性を感じる回答が多かった。会員にあまり知られていない事業や活用に至っていない事業について、広く関心をもってもらえるよう更なる情報発信の充実が必要である。

約40%超の会員が活用していると回答したホームページをはじめSNS等による情報発信の充実と共に、「信濃教育会報」を読んでいる会員が約90%近くいるという結果に示されるように印刷物による広報と連携させ、効果的な情報の発信について探りたい。

昨年度から実施されている公募制による全県研究大会の方向は、多く支持をされていることがアンケート結果に示された。一方で開催校への負担を心配する声もあり、学校や個人の主体性を大切にしつつ負担がかからないような運営推進を今後も進めたい。また、参集のよさもあるが、より多くの会員が参加できるように講演会などへの部分的オンライン参加、クラウドでの指導案共有等開催方法を工夫する余地があることも挙げていただいた。今後自発性や主体性、創造性がより発揮できるような方向性や信濃教育会のプラットフォーム的役割が求められていることがわかった。

今回のアンケート全体から、これまでの信濃教育会らしさを継承しつつ、引き続き時代に合わせた変革に挑戦する信濃教育会を望む声も多いこと、会員の声に耳を傾け長野県の教育について県下各郡市を繋ぎ、世代間を繋ぐ信濃教育会を目指していくことが求められていることを知ることができた。

## ＜ 運 営 ＞

### I 会員数(令和5年7月1日 現在)

種 類	本 年 度	前年度比増減
正 会 員		
義務教育、教育関係機関	7,853名	-164名
高等学校、大学	263名	-2名
正 会 員 合 計	8,116名	-166名
賛 助 会 員	1,765名	-28名

### II 執行、監査、議決、諮問機関

#### 一 理事会

開 催 月 日 及 び 会 議 事 項	会 議 の 結 果
<p>第1回 令和5年4月14日(金)</p> <p>(1) 議事</p> <p>① 第1号議案「定款第46条に基づく設置委員会委員の承認及び選任」に関する件</p> <p>② 第2号議案「役員候補者の選定」に関する件</p> <p>③ 第3号議案「総会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の決定」に関する件</p> <p>(2) 報告</p> <p>① 教育研究所 土曜公開講座、研究発表会の開催</p> <p>② 公募による研究調査委員について</p> <p>③ 「教師塾A」の開催について</p> <p>④ 「教師塾B」の講座内容について</p> <p>⑤ 「『極意』伝承道場」について</p> <p>⑥ 信濃教育会の研修事業について</p> <p>⑦ 「信教会長と語る会」について</p> <p>⑧ フードバンク活動への支援</p> <p>⑨ 「学校代表メールアドレス帳」の販売について</p> <p>⑩ 教育研究所ガイド</p> <p>⑪ 講習・講座の基本方針</p> <p>⑫ 郡市教育会の総集会・総会・新任者教育懇談会の予定一覧表</p> <p>⑬ 「教育研究論文・教育実践賞」基本計画</p> <p>⑭ アフタヌーンセミナー</p> <p>⑮ 年間行事予定表について</p> <p>(3) 協議</p> <p>① 常任委員会の構成</p> <p>② 令和5年度の基本方針及び事業計画・収支予算</p> <p>③ 第137回信濃教育会総集会更埴大会</p>	<p>(1)</p> <p>① 原案の通り承認又は選任</p> <p>② 【役員候補者】</p> <p>会長候補者 武田育夫氏</p> <p>副会長候補者 村松浩幸氏</p> <p>専務理事候補者 大日方貞一氏</p> <p>常務理事候補者 塩野入幸隆氏</p> <p>を各々選定した</p> <p>③ 原案の通り決議</p> <p>(2)</p> <p>報告の通り承認</p> <p>(3)</p> <p>提案に基づき協議</p>

<p>④ 全県研究大会の計画概要</p> <p>⑤ 第74回日本連合教育会研究大会山口大会への参加</p>	
<p>第2回 令和5年5月11日(木)</p> <p>(1) 議事 なし</p> <p>(2) 報告</p> <p>① 令和5年度各種委員会委員長・委員の報告及び確認</p> <p>② 常任委員会組織および分担内容</p> <p>③ 「極意伝承道場」について</p> <p>④ 「教師塾A」の開催について</p> <p>⑤ 第46回長野県同和教育研究大会への参加について</p> <p>⑥ 『信濃教育』「Booklet信教」「ふるさとの大地」の購読申し込み状況</p> <p>⑦ 災害見舞金ネーミング選考委員会委員の選出について</p> <p>⑧ 「第27回教育研究論文・教育実践賞」募集について</p> <p>⑨ 「信教会長と語ろう～若い教職員の視点で信濃教育会を考える～」の参加者推薦のお願い</p> <p>⑩ 第137回信濃教育会総集会更埴大会について</p> <p>⑪ 「学校代表メール アドレス帳」について</p> <p>⑫ 第3回理事会・常任委員会について</p> <p>(3) 協議</p> <p>① 応募型研修助成事業について</p> <p>② 校務支援システムを活用しての情報提供について</p>	<p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>報告の通り承認</p> <p>(3)</p> <p>提案に基づき協議</p>
<p>第3回 令和5年6月8日(木)</p> <p>(1) 議事</p> <p>① 第1号議案「令和4年度公益社団法人信濃教育会事業報告の承認」に関する件</p> <p>② 第2号議案「令和4年度公益社団法人信濃教育会決算の承認」に関する件</p> <p>(2) 報告</p> <p>① 講習・基礎講座</p> <p>② 「教員助成事業」の応募状況</p> <p>③ 「信教会長と語る会」の応募状況</p> <p>④ 第74回日本連合教育会研究大会山口大会</p> <p>⑤ 第4回理事会・常任委員会について</p> <p>⑥ 雑誌『信濃教育』の購読増について</p> <p>⑦ 学事関係職員録の購入増に向けて</p> <p>⑧ 子ども自らが創り出す「防災教育」について</p> <p>(3) 協議</p> <p>① 第137回信濃教育会総集会更埴大会について</p> <p>② 信濃教育会への入会状況と今後の会員増の取組</p>	<p>(1)</p> <p>原案の通り承認</p> <p>(2)</p> <p>報告の通り承認</p> <p>(3)</p> <p>提案に基づき協議</p>



<p>臨時 令和5年6月27日(火)</p> <p>① 第1号議案「会長、副会長、専務理事及び常務理事の選定」に関する件</p>	<p>① 会長 武田育夫氏 副会長 村松浩幸氏 専務理事 大日方貞一氏 常務理事 塩野入幸隆氏 各氏を選定</p>
<p>第4回 令和5年8月24日(木)</p> <p>(1) 議事</p> <p>① 第1号議案「総会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の決定」に関する件</p> <p>(2) 報告</p> <p>① 教育研究所研究発表会報告 ② 教育研究所募集要項 ③ 第20回信州“教育の日”宮田大会 ④ 信濃教育会慶弔規程の見直し ⑤ 購読の募集状況について ⑥ 「教員助成事業」の応募状況 ⑦ 郡市教育会展開催について</p> <p>(3) 協議</p> <p>① 「入会及び退会並びに会費規程改正(案)」について ② 「実年会員にとって『魅力』ある事業」について ③ 令和5年度全県研究大会の推進予定および令和6年度の構想 ④ 第137回信濃教育会総集会更埴大会の反省 ⑤ 信濃教育会総集会のねらいについて ⑥ 令和5年度信濃教育会会員アンケートの推進について ⑦ 令和5年度信濃教育会編集の教科用図書等に関する意見・要望のとりまとめについて ⑧ 教育研究団体補助金の決定について ⑨ 今年度の会員増の取組と今後に向けて</p>	<p>(1) 原案の通り承認、決議</p> <p>(2) 報告の通り承認</p> <p>(3) 提案に基づき協議</p>
<p>第5回 令和5年11月20日(月)</p> <p>(1) 議事</p> <p>① 第1号議案『会員災害見舞金規定の施行に関する細則一部改正(案)の議決』に関する件 ② 第2号議案『信濃教育会旅費支給規程一部改正(案)及び信濃教育会職員出張旅費規程一部改正(案)の議決』に関する件 ③ 第3号議案『信濃教育会慶弔規程一部改正(案)の議決』に関する件 ④ 第4号議案「総会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の決定」に関する件</p> <p>(2) 報告</p> <p>① 教育研究所の応募状況 ② 令和5年度図書教材研究協議会アンケートのまとめ</p>	<p>(1) 原案の通り決議、承認</p> <p>(2) 報告の通り承認</p>

<p>③ 第20回信州“教育の日”について</p> <p>④ 感謝状贈呈対象者名簿の提出について</p> <p>⑤ 第76回日本連合教育研究大会愛媛大会及び山口大会参加報告</p> <p>⑥ 令和6年度「極意」伝承道場の指導者推薦名簿の提出について</p> <p>⑦ 令和6年度教師塾Bについて</p> <p>⑧ 令和6年度臨地講習・基礎講座の予定</p> <p>⑨ 出版物（教科書、休み帳等）の採択状況</p> <p>⑩ 令和5年度第27回教育研究論文・教育実践賞の募集</p> <p>(3) 協議</p> <p>① 「佐久間象山肖像画（中村不折 信濃教育会蔵）」の高遠美術館寄託について</p> <p>② 令和5年度事業の成果と課題</p> <p>③ 令和6年度予算編成方針（収入見込み）</p> <p>④ 令和5年度臨地講習・基礎講座の成果と課題 令和6年度臨地講習・基礎講座の予定</p> <p>⑤ 第138回信濃教育会総集会北安曇大会基本構想</p> <p>⑥ 令和5年度信濃教育会の事業に対する会員アンケートのまとめ 令和5年度図書教材研究協議会アンケートのまとめ</p> <p>⑦ 令和5年度信教全県研究大会の報告 令和6年度信教全県研究大会に向けて</p> <p>⑧ 今後の会員増の取組</p>	<p>(3)</p> <p>提案に基づき協議</p>
<p>第6回 令和6年1月23日（火）</p> <p>(1) 議事</p> <p>① 第1号議案「令和6年度公益社団法人信濃教育会事業計画（案）の議決」に関する件</p> <p>② 第2号議案「令和6年度公益社団法人信濃教育会収支予算（案）の議決」に関する件</p> <p>③ 第3号議案「令和6年度公益社団法人信濃教育会資金調達及び設備投資の見込み（案）の議決」に関する件</p> <p>④ 第4号議案「臨時総会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の決定」に関する件</p> <p>(2) 報告</p> <p>① 第77回日連教長野大会の開催に向けて</p> <p>② 「信教窓口担当者」への謝礼と「窓口担当者会」開催について</p> <p>③ 郡市校長会への訪問について</p> <p>④ 令和6年度信濃教育会年間行事予定</p> <p>⑤ 教育論文・教育実践賞の今後の推進計画</p> <p>⑥ 令和6年度「極意」伝承道場について</p> <p>⑦ 会報3月号掲載の代議員選挙公示について</p> <p>(3) 協議</p> <p>① 令和6年度講習・講座の概要</p> <p>② 令和6年度各種委員会委員長・委員候補者の推薦及び公募について</p>	<p>(1)</p> <p>原案の通り決議</p> <p>(2)</p> <p>報告の通り承認</p> <p>(3)</p> <p>提案に基づき協議</p>

<p>第7回 令和6年3月2日(土)</p> <p>(1) 議事 第1号議案「重要な職員の任免」に関する件 第2号議案「新会長の選定」に関する件</p> <p>(2) 報告 ① 第27回「教育研究論文・教育実践賞」審査報告 ② 雑誌『信濃教育』の購読の勧め ③ 第75回日本連合教育会研究大会愛媛大会参加について ④ 令和6年度教師塾B都市開催日時一覧 ⑤ 第37回「今を生きる子どもの絵展」について ⑥ 第9回アフタヌーンセミナーについて ⑦ 令和6年度第1回理事会・常任委員会通知</p> <p>(3) 協議 ① 常任委員会部会報告・協議 ② 令和6年度に向けて ③ 災害見舞金ネーミング選考委員会からの報告・依頼</p>	<p>(1) 提案の通り承認・議決</p> <p>(2) 報告の通り承認</p> <p>(3) 提案に基づき協議</p>
<p>臨時 令和6年3月21日(木)</p> <p>(1) 議事 ① 第1号議案「新会長の選定」に関する件</p>	<p>① 大日方貞一氏を選定</p>

## 二 監 査

### (一) 会計監査人 監査

会計監査人 小川 直樹 公認会計士

実施事項及び開催月日	実施の結果
<p>(1) 「期中往査」 期中会計処理、事務処理の確認 令和5年12月15日(金)</p> <p>(2) 「令和5年度決算監査」 令和6年4月22日(月) 令和6年5月14日(火)</p> <p>・貸借対照表及び損益計算書並びにその附属明細書並びに財産目録 ・貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表</p>	<p>① 報告に従い、監査 ② 監査報告書の作成</p>

### (二) 監事会 監査

監 事 青木 昭氏 安達永眞氏

開催月日及び実施事項	実施の結果
<p>(1) 期 日 令和6年6月4日(火) 「令和4年度事業及び決算」 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)</p> <p>① 令和5年度事業 ② 令和5年度決算</p>	<p>(1)</p> <p>① 報告の通り承認 ② 報告の通り承認 ア 監査結果報告書作成 イ 6月25日開催の定時総会で 監査報告の予定</p>

### 三 総会

開催月日及び会議事項	会議の結果
<p>定時総会 令和5年6月27日(火)</p> <p>(1) 議事</p> <p>〔報告事項〕 「令和4年度公益社団法人信濃教育会事業報告」の内容報告に関する件</p> <p>〔決議事項〕</p> <p>① 第1号議案「令和5年度公益社団法人信濃教育会決算の承認」に関する件</p> <p>② 第2号議案「公益社団法人信濃教育会 理事及び監事の選任並に会長、副会長、専務理事及び常務理事候補者の選任」に関する件</p> <p>(2) 協議</p> <p>① 令和5年度信濃教育会事業及び予算について</p> <p>② 雑誌『信濃教育』の購読増について</p> <p>③ 再任用者及び定年延長者の会費改定について</p> <p>④ 再任用者及び定年延長者に配慮した事業企画について</p> <p>(3) 報告・連絡事項</p> <p>① 教育研究所本年度の運営方針</p> <p>② 講習・講座の計画</p> <p>③ 全県研究大会の概要及び令和5年度全県研究大会に向けて</p> <p>④ 第74回日本連合教育会研究大会山口大会について</p> <p>⑤ 第27回教育研究論文・教育実践賞の募集</p> <p>⑥ 「教員助成事業」の申込み状況</p> <p>⑦ 第20回信州“教育の日”宮田大会について</p> <p>⑧ 第42次日中友好長野県教育者訪中団について</p> <p>⑨ 第137回信濃教育会総集会更埴大会について</p> <p>⑩ 令和5年度総会の年間計画及び第2回臨時総会について</p>	<p>(1)</p> <p>〔決議事項〕</p> <p>① 原案の通り承認</p> <p>② 理事6名の選任 武田育夫氏・村松浩幸氏・大日方貞一氏・塩野入幸隆氏 桂本和弘氏・篠原謙治氏 監事2名の選任 青木 昭氏・安達永眞氏 会長候補者の選任 武田育夫氏 副会長候補者の選任 村松浩幸氏 専務理事候補者の選任 大日方貞一氏 常務理事候補者の選任 塩野入幸隆氏</p> <p>(2)</p> <p>原案に基づき協議</p> <p>(3)</p> <p>報告・連絡事項を確認</p>

<p>第2回 令和5年9月5日(火)</p> <p>※ オンラインによる開催</p> <p>(1) 議事</p> <p>第1号議案「入会及び退会並びに会費規程の改正(案)の議決」に関する件</p> <p>第2号議案「保有債券償還に伴う新規債券購入の承認」に関する件</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>① 「実年会員にとって『魅力』ある事業」について</p> <p>② 令和5年度全県研究大会の推進及び令和6年度全県研究大会の構想</p> <p>③ 第137回信濃教育会総集会更埴大会の反省及び今後に向けて</p> <p>④ 令和5年度会員アンケートの推進計画</p> <p>⑤ 令和5年度図書教材研究協議会アンケートについて</p> <p>⑥ 教育研究団体補助金の決定について</p> <p>⑦ 今年度の会員増の取組と今後に向けて</p> <p>(3) 報告・連絡事項</p> <p>① 教育研究所研究発表会報告</p> <p>② 教育研究所募集要項</p> <p>③ 第20回信州“教育の日”宮田大会 -ハイブリット-</p> <p>④ 購読の募集状況について</p> <p>⑤ 「教員助成事業」の応募状況</p> <p>⑥ 郡市教育会展開催について</p> <p>(4) 意見交換</p> <p>テーマ：「働き方改革の中で、教員の学びをどのように位置付けていくか」</p>	<p>(1)</p> <p>原案通り議決</p> <p>原案の通り承認</p> <p>(2)</p> <p>原案に基づき協議</p> <p>(3)</p> <p>報告・連絡事項を確認</p> <p>(4)</p> <p>テーマに沿って意見交換</p>
<p>第3回 令和5年11月28日(火)</p> <p>(1) 議事 なし</p> <p>(2) 協議</p> <p>① 令和5年度信濃教育会の事業に対する会員アンケートのまとめ</p> <p>② 令和5年度事業の成果と課題・今後の方向</p> <p>③ 信教全県研究大会への参画について</p> <p>④ 令和6年度予算編成方針(収入見込み)</p> <p>⑤ 第138回信濃教育会総集会北安曇大会基本構想</p> <p>⑥ 今後の事業について</p> <p>⑦ 信教PVの活用状況と効果について</p> <p>(3) 報告・連絡事項</p> <p>① 教育研究所の応募状況</p> <p>② 令和5年度図書教材研究協議会アンケートのまとめ</p> <p>③ 第20回信州“教育の日”について</p> <p>④ 第76回日本連合教育研究大会愛媛大会及び山口大会参加報告</p> <p>⑤ 令和6年度教師塾Bについて</p> <p>⑥ 令和6年度臨地講習・基礎講座の予定</p> <p>⑦ 出版物(教科書、休み帳等)の採択状況</p> <p>⑧ 令和5年度第27回教育研究論文・教育実践賞の募集</p>	<p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>原案に基づき協議</p> <p>(3)</p> <p>報告・連絡事項を確認</p>



<p>第4回 令和6年2月6日(火)</p> <p>※ 大雪のためオンライン開催</p> <p>(1) 議事</p> <p>① 第1号議案「令和6年度公益社団法人信濃教育会事業計画(案)の承認」に関する件</p> <p>② 第2号議案「令和6年度公益社団法人信濃教育会収支予算(案)の承認」に関する件</p> <p>③ 第3号議案「令和6年度公益社団法人信濃教育会資金調達及び設備投資の見込み(案)の承認」に関する件</p> <p>(2) 報告・連絡</p> <p>① 会報3月号掲載の代議員選挙公示</p> <p>② 令和6年度全県研究大会計画</p> <p>③ 令和6年度年間行事予定</p> <p>④ 令和6年度雑誌「信濃教育」の発刊について</p> <p>⑤ 教育実践誌「ふるさとの大地」発刊について</p> <p>(3) 情報交換</p> <p>テーマ:「長野県の教育課題について考える」</p> <p>～学校や教師は、どのように変わっていけばよいのか</p>	<p>(1)</p> <p>① ② ③</p> <p>原案の通り承認</p> <p>(2)</p> <p>報告・連絡事項を確認</p> <p>(3)</p> <p>テーマに沿って情報交換</p>
---	---

#### 四 常任委員会

開催月日及び 会議事項	会議の結果
<p>第1回 令5年4月14日(金)</p> <p>(1) 協議</p> <p>① 常任委員会の構成</p> <p>② 令和5年度の基本方針及び事業計画・収支予算</p> <p>③ 第137回信濃教育会総集会更埴大会</p> <p>④ 全県研究大会の計画概要</p> <p>⑤ 第74回日本連合教育会研究大会山口大会への参加</p> <p>(2) 報告・連絡事項</p> <p>① 教育研究所 土曜公開講座、研究発表会の開催</p> <p>② 公募による研究調査委員について</p> <p>③ 「教師塾A」の開催について</p> <p>④ 「教師塾B」の講座内容について</p> <p>⑤ 「『極意』伝承道場」について</p> <p>⑥ 信濃教育会の研修事業について</p> <p>⑦ 「信教会長と語る会」について</p> <p>⑧ フードバンク活動への支援</p> <p>⑨ 「学校代表メールアドレス帳」の販売について</p> <p>⑩ 教育研究所ガイド</p> <p>⑪ 講習・講座の基本方針</p> <p>⑫ 郡市教育会の総集会・総会・新任者教育懇談会の予定一覧表</p> <p>⑬ 「教育研究論文・教育実践賞」基本計画</p>	<p>(1)</p> <p>提案に基づき協議</p> <p>(2)</p> <p>報告・連絡事項を確認</p>

<p>⑭ アフタヌーンセミナー ⑮ 年間行事予定表について</p> <p>(3) 部会</p> <p>(4) 情報交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年度末からの会員増の取組と今後に向けて</li> <li>○ 「長野県学事関係職員録」の購入増の取組</li> </ul>	<p>(3)</p> <p>(4)</p> <p>テーマに沿って情報交換</p>
<p>第2回 令和5年5月11日(木)</p> <p>(1) 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 定時総会日程 議事・協議</li> <li>② 応募型研修助成事業について</li> <li>③ 校務支援システムを活用しての情報提供について</li> </ul> <p>(2) 研修</p> <p>テーマ：「公教育に選択肢を増やすには」 講師：中川 綾氏(株式会社アソビジ代表取締役・長野県教育委員)</p> <p>(3) 報告・連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 令和5年度各種委員会委員長・委員の報告及び確認</li> <li>② 常任委員会組織および分担内容</li> <li>③ 「極意伝承道場」について</li> <li>④ 「教師塾A」の開催について</li> <li>⑤ 第46回長野県同和教育研究大会への参加について</li> <li>⑥ 『信濃教育』『Booklet信教』『ふるさとの大地』の購読申し込み状況</li> <li>⑦ 災害見舞金ネーミング選考委員会委員の選出について</li> <li>⑧ 「第27回教育研究論文・教育実践賞」募集について</li> <li>⑨ 「信教会長と語ろう～若い教職員の視点で信濃教育会を考える～」の参加者推薦のお願い</li> <li>⑩ 第137回信濃教育会総集会更埴大会について</li> <li>⑪ 「学校代表メール アドレス帳」について</li> <li>⑫ 第3回理事会・常任委員会について</li> </ul> <p>(4) 部会</p> <p>(5) 常任委員と郡市担当部長との懇談</p>	<p>(1)</p> <p>原案に基づき協議</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p> <p>報告・連絡事項を確認</p> <p>(4)</p> <p>(5)</p>
<p>第3回 令和5年6月8日(木)</p> <p>(1) 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 定時総会報告・付議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 報告事項 「令和4年度公益社団法人信濃教育会事業報告」に関する件</li> <li>イ 第1号議案「令和4年度公益社団法人信濃教育会決算の承認」に関する件</li> <li>ウ 第2号議案「公益社団法人信濃教育会 理事及び監事の選任並びに会長、副会長、専務理事及び常務理事候補者の選任」に関する件</li> </ul> </li> <li>② 信濃教育会への入会状況と今後の会員増の取組</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>原案に基づき協議</p>

<p>(2) 報告・連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 臨地講習・基礎講座</li> <li>② 「教員助成事業」の応募状況</li> <li>③ 「信教会長と語る会」の応募状況</li> <li>④ 第74回日本連合教育会研究大会山口大会</li> <li>⑤ 第4回理事会・常任委員会について</li> <li>⑥ 雑誌「信濃教育」の購読増について</li> <li>⑦ 学事関係職員録の購入増に向けて</li> <li>⑧ 子ども自らが創り出す「防災教育」について</li> </ul> <p>(3) 情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 若い会員も参画できる教育会運営</li> </ul> <p>(4) 研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ…「今の教育・これからの教育」</li> <li>講師… 嶋野道弘氏 (元文教大学教育学部教授)</li> </ul> <p>(5) 常任委員と担当部長との懇談</p>	<p>(2)</p> <p>報告・連絡事項を確認</p> <p>(3)</p> <p>テーマに沿って情報交換</p> <p>(4)</p> <p>(5)</p>
<p>第4回 令5年8月24日(木)</p> <p>※ オンラインによる開催</p> <p>(1) 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 第2回臨時総会付議事項</li> <li>第1号議案「入会及び退会並びに会費規程の改正(案)の議決」に関する件</li> <li>第2号議案「保有債券償還に伴う新規債券購入の承認」に関する件</li> <li>② 「実年会員にとって『魅力』ある事業」について</li> <li>③ 令和5年度全県研究大会の推進</li> <li>④ 令和6年度全県研究大会の構想</li> <li>⑤ 第137回信濃教育会総集会更埴大会の反省</li> <li>⑥ 信濃教育会総集会の目的・あり方について</li> <li>⑦ 令和5年度会員アンケートの推進計画</li> <li>⑧ 令和5年度図書教材研究協議会アンケートについて</li> <li>⑨ 教育研究団体補助金の決定について</li> <li>⑩ 今年度の会員増の取組と今後に向けて</li> </ul> <p>(2) 報告・連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教育研究所研究発表会</li> <li>② 教育研究所募集要項</li> <li>③ 第20回信州“教育の日”宮田大会</li> <li>④ 信濃教育会慶弔規程の見直し</li> <li>⑤ 購読の募集状況</li> <li>⑥ 「教員助成事業」の応募状況</li> <li>⑦ 郡市教育会展開催について</li> </ul> <p>(3) 部会</p>	<p>(1)</p> <p>原案に基づき協議</p> <p>(2)</p> <p>報告・連絡事項を確認</p> <p>(3)</p>

<p>第5回 令和5年11月20日(月)</p> <p>(1) 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 令和5年度信濃教育会の事業に対する会員アンケートのまとめ</li> <li>② 令和5年度事業の成果と課題・今後の方向</li> <li>③ 令和6年度予算編成方針(収入見込み)</li> <li>④ 令和5年度信教全県研究大会の報告 令和6年度信教全県研究大会に向けて</li> <li>⑤ 第138回信濃教育会北安曇大会基本構想</li> <li>⑥ 今後の事業について</li> <li>⑦ 年度当初の会員数の報告について</li> </ul> <p>(2) 報告・連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教育研究所の応募状況</li> <li>② 令和5年度図書教材研究協議会アンケートのまとめ</li> <li>③ 第20回信州“教育の日”について</li> <li>④ 感謝状贈呈対象者名簿の提出について</li> <li>⑤ 第76回日本連合教育研究大会愛媛大会及び山口大会参加報告</li> <li>⑥ 令和6年度「極意」伝承道場の指導者推薦名簿の提出について</li> <li>⑦ 令和6年度教師塾Bについて</li> <li>⑧ 令和6年度臨地講習・基礎講座の予定</li> <li>⑨ 出版物(教科書、休み帳等)の採択状況</li> <li>⑩ 令和5年度第27回教育研究論文・教育実践賞の募集</li> <li>⑪ 佐久間象山肖像画高遠美術館寄託について</li> </ul> <p>(3) 意見交換</p> <p>テーマ:「教職員の研修に対する自主性・主体性を育む」</p> <p>(4) 研修</p> <p>テーマ:コミュニテースクール及び小中一貫教育</p> <p>講師:貝ノ瀬 滋先生(三鷹市教育長 東京都教育会長)</p>	<p>(1) 原案に基づき協議</p> <p>(2) 報告・連絡事項を確認</p> <p>(3) テーマについて意見交換</p> <p>(4)</p>
<p>第6回 令和6年1月23日(火)</p> <p>※オンラインによる開催</p> <p>(1) 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 第4回臨時総会付議事項について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 第1号議案「令和6年度公益社団法人信濃教育会事業計画(案)の承認」に関する件</li> <li>イ 第2号議案「令和6年度公益社団法人信濃教育会収支予算(案)の承認」に関する件</li> <li>ウ 第3号議案「令和6年度公益社団法人信濃教育会資金調達及び設備投資の見込み(案)の承認」に関する件</li> </ul> </li> <li>② 令和5年度第4回臨時総会</li> <li>③ 令和6年度講習・講座の概要</li> <li>④ 令和6年度各種委員会委員長・委員候補者の推薦及び公募</li> </ul> <p>(2) 報告・連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 第77回日連教長野大会の開催に向けて</li> <li>② 「信教窓口担当者」への謝礼と「窓口担当者会」開催について</li> </ul>	<p>(1) 原案に基づき協議</p> <p>(2) 報告・連絡事項を確認</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 郡市校長会への訪問について</li> <li>④ 令和6年度信濃教育会年間行事予定</li> <li>⑤ 教育論文・教育実践賞の今後の推進計画</li> <li>⑥ 令和6年度「極意」伝承道場について</li> <li>⑦ 会報3月号掲載の代議員選挙公示</li> </ul> <p>(3) 部会</p> <p>(4) 情報交換 テーマ：各郡市教育会の改革の取組と新規事業について</p> <p>(5) 常任委員と郡市担当との懇談</p>	<p>(3)</p> <p>(4) テーマに沿って情報交換</p> <p>(5)</p>
<p>第7回 令和6年3月2日(土)</p> <p>(1) 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 委員会報告・協議</li> <li>② 「令和6年度信濃教育会関係事務引き継ぎ事項」の確認</li> <li>③ 災害見舞金ネーミング選考委員会からの報告・依頼</li> </ul> <p>(2) 報告・連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 第77回日連教長野大会の開催に向けて</li> <li>② 「信教窓口担当者」への謝礼と「窓口担当者会」開催について</li> <li>③ 郡市校長会への訪問について</li> <li>④ 令和6年度信濃教育会年間行事予定</li> <li>⑤ 教育論文・教育実践賞の今後の推進計画</li> <li>⑥ 令和6年度「極意」伝承道場について</li> <li>⑦ 会報3月号掲載の代議員選挙公示について</li> </ul> <p>(3) 教育会長会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 各教育会の課題</li> </ul>	<p>(1) 原案に基づき協議</p> <p>(2) 内容についての周知及び確認</p> <p>(3) テーマに沿って情報交換</p>

## 五 幹事会

開催月日	会議事項
<p>第1回 令和5年4月11日(火)</p>	<p>(1) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 本年度からの幹事会の役割, ミッション</li> <li>② 「学びをシェアする機会を考える」</li> <li>③ 令和5年度幹事会予定</li> </ul> <p>(2) 諸報告・連絡等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 令和5年度幹事・役職員名簿等について</li> <li>② 第26回教育研究論文・教育実践賞の基本計画</li> <li>③ 信濃教育会研修事業の「指定研修」への位置づけ</li> <li>④ 第137回信濃教育会総集会更埴大会について</li> <li>⑤ 第27回教育研究論文・教育実践賞について</li> <li>⑥ 第1回理事会・第1回常任委員会の審議, 協議事項・部会について</li> </ul>
<p>第2回 令和5年4月26日(水)</p>	<p>(1) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 全県で集まって交流する会を考える</li> </ul> <p>(2) 諸報告・連絡等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 第2回理事会・常任委員会開催について</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>② 講習・講座（合唱、ホケストラ、信濃の自然めぐり）</li> <li>③ 第137回信濃教育会総集会更埴大会について</li> <li>④ 短期視察研修補助，自主的校内研修補助，学び続ける教師への助成事業</li> <li>⑤ 本年度の入会状況</li> <li>⑥ 第3回幹事会について</li> <li>⑦ 今後の予定</li> </ul>
第3回 令和5年5月31日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 信濃教育会の入会状況，雑誌「信濃教育」購読状況・グループ協議、全体協議</li> </ul> </li> <li>(2) 諸報告・連絡等 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 第1回定時総会協議事項について</li> <li>② 令和4年度事業報告・決算の承認について</li> <li>③ 信州“教育の日”宮田大会について</li> <li>④ 全県研究大会について</li> <li>⑤ 「自主的校内研修補助事業」「短期視察研修補助事業」「学び続ける教師への助成事業」の申込み状況</li> <li>⑥ 第1回アフタヌーンセミナー及び教師塾Aへの参加状況</li> </ul> </li> </ul>
第4回 令和5年8月25日（金）	<p>※ オンラインによる開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 令和5年度会員アンケート実施について</li> <li>② 信濃教育会総集會について</li> <li>③ 令和5年度図書教材研究協議会アンケートについて</li> <li>④ 第2回臨時総会付議事項について</li> <li>⑤ 教育研究団体補助金の決定について</li> <li>⑥ 教育研究所研修員の募集について</li> <li>⑦ 会員増・購読増について</li> </ul> </li> <li>(2) 諸報告・連絡等 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 信州“教育”の日宮田大会について</li> <li>② 防災教育について</li> <li>③ 第4回信教アフタヌーンセミナーについて</li> <li>④ 短期視察研修補助，自主的校内研修補助事業，学び続ける教師への助成事業の申請状況</li> <li>⑤ 教育研究団体との教育懇談会実施計画</li> </ul> </li> </ul>
第5回 令和5年11月9日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 幹事会報告</li> <li>② 信濃教育会会員アンケートについて</li> <li>③ 令和5年度事業反省と令和6年度事業の方向</li> </ul> </li> <li>(2) 協議 <ul style="list-style-type: none"> <li>① これからの学校づくりのために，何をどうすれば，何ができるのか</li> </ul> </li> <li>(3) 諸報告・連絡等 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 第6回幹事会開催について</li> </ul> </li> </ul>

第6回 令和6年2月1日(木)	(1) 協議事項 ① 令和6年度事業計画案、予算案、議案提案書 ② 令和5年度全県研究大会のまとめと次年度の方向 ③ 長野県教育の課題(グループ協議) (2) 諸報告・連絡等 ① 第6回理事会, 第6回常任委員会協議事項 ② 第4回総会審議・協議事項について ③ 令和6年度講習・講座の基本方針・計画 ④ 令和6年度各種委員会の構成・推薦 ⑤ 令和6年度信濃教育会年間行事の予定
-----------------	--

## 六 事業推進連絡委員会

開催月日及び会議事項	会議事項
第1回 令和5年6月5日(月)	(1) 協議・依頼事項 ① 事業推進連絡委員会任務の確認 ② 令和5年度事業推進について ③ 第74回日本連合教育会研究大会山口大会について (2) 情報交換 ① 会員増について ② 郡市教育会が抱える課題
第2回 令和5年9月11日(月)	※オンラインによる開催 (1) 協議事項 ① 年度当初の入会・退会の確認方法について ② 信教慶弔規程改正について ③ 各教育会の事務局員の確保について
第3回 令和6年2月26日(月)	(1) 協議・依頼事項 ① 令和6年度事業計画について ② 令和6年度予算について ③ 信濃教育会関係引継ぎ書類等 ④ 教育研究論文・教育実践賞 ⑤ 感謝状の贈呈 ⑥ 年度当初の信濃教育会会員数について ⑦ 窓口担当者への御礼について (2) 情報交換 ① 教育会事務局運営上の問題点・課題 ② 信濃教育会に対する意見・要望